



山口市観光交流 加速化ビジョン



山口市

2019(平成31)年3月

はじめに

本市は、2010(平成22)年に「山口市観光交流基本計画」を策定し、観光関連業者だけでなく、地域全体がまちとしての豊かさを享受し、誇りの持てる地域づくりや、地域の住民自らが創り出すおもてなしあふれる観光地づくりをめざして、これまで、観光振興施策に取り組んでまいりました。

こうした中、第二次山口市総合計画(2018年度～2027年度)では、山口市の将来像として「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口～これが私のふるさとだ～」を掲げ、「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを実現するためには、観光産業は地域経済の振興における欠くことのできないエンジンであると考えているところです。

観光によるまちづくりにあたっては、地域の多彩な観光資源を組み合わせることなどにより、地域間や他分野との交流による新たなひとの流れを創出し、人と人、人と地域、人と都市などの交流が重層的につながるように取り組むこととしております。

また、近年の観光を取り巻く環境は、外国人観光客の増加や広域連携による観光地域づくりの動きなど、著しく変化しており、国内外での都市間競争・観光地間競争が増しております。

一方で、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や、同大会に合わせて実施される「日本博」の開催を好機と捉え、これらと連動する取組の推進や、さらには2021年における山口県央連携都市圏域を構成する本市をはじめ、近隣7市町を会場とする周遊型博覧会の開催によって、今後の本市の観光産業の好循環を実現する大きな弾みとしてまいりたいと考えております。

本ビジョンは、このような情勢を踏まえ、本市が目指すべき観光の将来像を示すとともに、目標達成のために採るべき原則的な方針(戦略)と、具体的に着手すべき手段(諸施策)について、示したものです。

本市といたしましては、常に変化する様々な観光動向を的確に捉え、環境変化や課題解決に向けた施策の見直しを図り、将来の観光地域づくりに向けた取組を推進し、魅力ある都市として次世代に継承することで「観光立市」としての本市のまちづくりを確かなものにしていく考えです。

本年は、新たな元号のもと、新しい国づくりを未来につなげていく、歴史的に意義深い年でもございますことから、本ビジョンのスタートとなる新年度を「つなぐ 未来創造」の年と位置づけたところであり、観光施策におきましても、未来への投資を加速し、将来にわたって安心して暮らせるまちづくりへとつないでまいります。

本ビジョンの推進にあたりましては、市民の皆様にも本計画の趣旨を御理解いただき、市民、関係機関、行政が一体となって取り組んでまいりたいと考えております。

終わりに、本ビジョンの策定にあたり、格別の御尽力をいただきました山口市観光産業活性化委員会の皆様をはじめ、関係各位並びに市民の皆様にご心からお礼申し上げます。



目 次

第1章	ビジョン策定にあたって	1
I	ビジョン策定の目的	1
II	ビジョンの位置づけ	2
III	ビジョンの期間	2
第2章	本市を取り巻く観光情勢と課題	3
I	国の観光施策	3
II	山口県の観光施策	3
III	本市の観光情勢	3
第3章	ビジョンの基本的方向	7
I	基本理念	7
II	基本目標	8
III	施策の方向性	11
IV	ビジョンの施策体系	13
第4章	先導的プロジェクト	29
I	多様な主体の活力を引き出す『活躍プロジェクト』	30
II	観光の質を高める地域資源の『フル活用プロジェクト』	32
第5章	ビジョンの推進方策	37
I	推進体制の強化	38
II	観光経営マネジメントの構築	40
	資料編	41

第1章 ビジョン策定にあたって

I ビジョン策定の目的

本格的な少子高齢社会や人口減少社会に直面する中、観光をとりまく環境は、外国人観光客の増加や広域観光連携による観光地域づくりを目的としたDMO^[※]の導入など、著しく変化をしています。国においては、2017(平成29)年3月に世界が訪れたい日本を目指すべく、新たな「観光立国推進基本計画」を策定され、観光は我が国の成長戦略の柱、地方創生への切り札と位置付け、拡大する世界の観光需要を取り込むには、観光をめぐる旅行者のニーズや情報収集の形態の変化などに対し、柔軟かつ的確な対応を必要としています。

本市においても、国内外での都市間競争・観光地間競争を勝ち残るべく、刻々と変化する様々な観光環境を的確に捉えながら、環境変化や課題解決に向けた施策の見直しを図り、今後の都市づくりや地域づくりと一体となった取組を推進し、魅力ある都市として次世代に継承することが必要です。

こうした中、第二次山口市総合計画(2018年度～2027年度)では、本市が目指すまちの将来像として「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口～これが私のふるさとだ～」を掲げており、市内21の全ての地域の多彩な観光資源を組み合わせるなど、地域間や他分野との交流による新たなひとの流れを創出し、人と人、人と地域、人と都市などの交流が重層的につながるまちを創造していくこととしています。

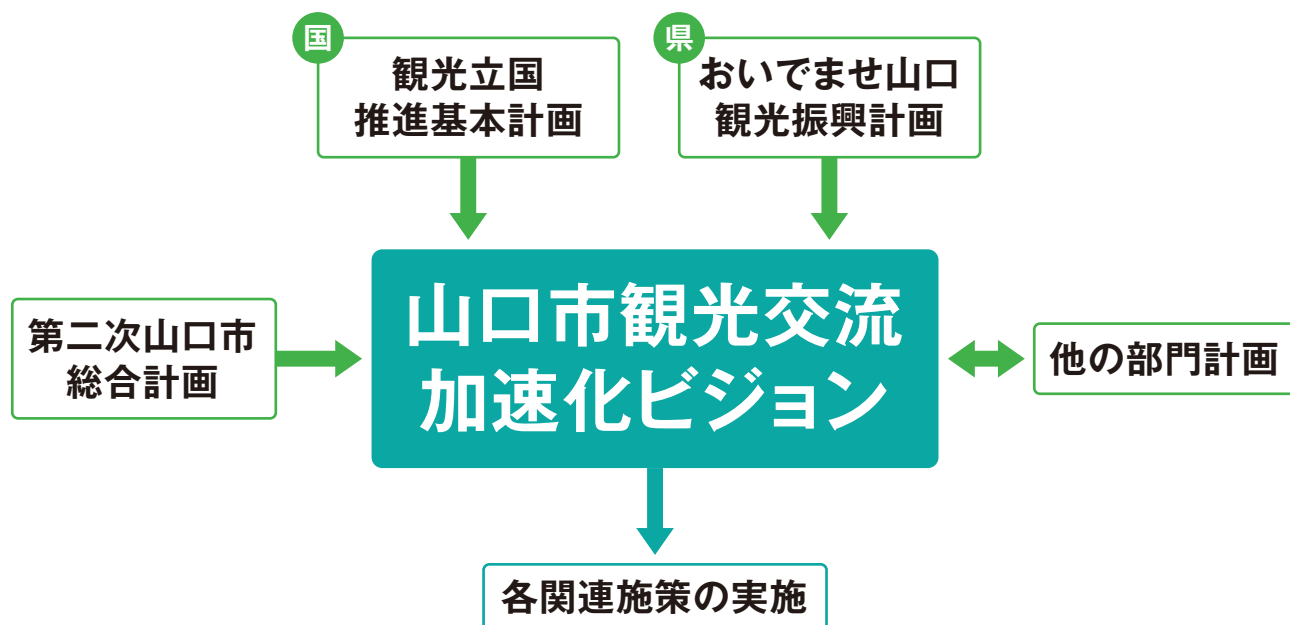
とりわけ地方都市の人口減少、少子高齢社会が進む中において、持続的な経済発展には交流人口の拡大は必要不可欠であり、観光産業の経済波及効果をもたらすポテンシャルは限りなく大きく、観光は切り離せないものと位置づけております。

本ビジョンは、このような情勢を踏まえ、県央連携都市圏域間の連携による広域観光の強化や都市としての認知度向上など、今後を見据えた新たな視点からの観光振興のあり方を方向づけ、本市が目指すべき観光の将来像を示すとともに、目標達成のために採るべき原則的な方針(戦略)と、具体的に着手すべき手段(諸施策)について、その担い手や取組のスケジュールを併せて示し、「観光立市・やまぐち」の実現に向けた働きかけをさらに加速化していくものです。

[※]DMO Destination Management/Marketing Organizationの略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習など地域の「稼ぐ力」を引き出し、観光地域づくりを実現するための戦略を策定・実践する法人。

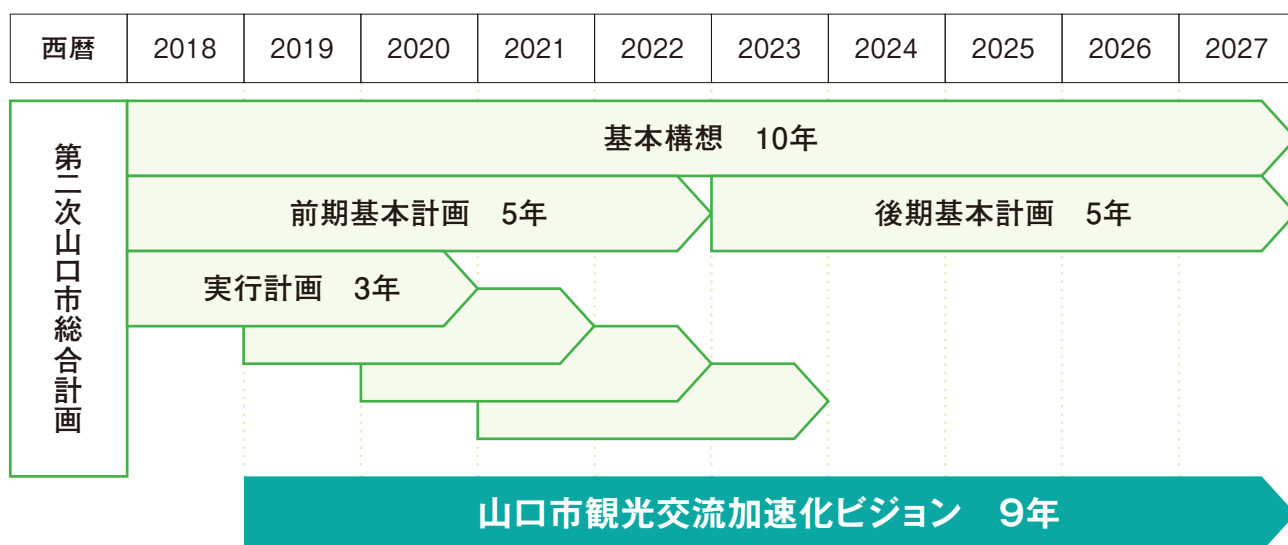
Ⅱ ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、第二次山口市総合計画を上位計画とし、観光の視点から、その実現に向けての有効な施策を定めるとともに、他分野の施策・計画との連携・整合性を図ります。



Ⅲ ビジョンの期間

2019年度から2027年度までの9年間とします。



第2章 本市を取り巻く観光情勢と課題

I 国の観光施策

国においては、観光立国推進基本法(2006(平成18)年法律第117号)に基づき、新たな「観光立国推進基本計画」(2017(平成29)年度～2020(平成32)年度)が閣議決定されました。この計画は、「明日の日本を支える観光ビジョン」(2016(平成28)年3月30日 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定)を踏まえ、観光が我が国の成長戦略の柱、地方創生への切り札であるという認識の下、拡大する世界の観光需要を取り込み、「世界が訪れたい日本」を目指し、観光先進国の実現に向けて、取組を進めることとしています。

II 山口県の観光施策

山口県においては、おいでませ山口観光振興条例(2015(平成27)年12月制定)に定める推進計画として、やまぐち観光推進計画(2013(平成25)年10月策定)をベースに、条例の理念等を反映させるとともに、観光を取り巻く情勢変化に的確に対応し、施策を総合的かつ計画的に推進する新たな計画として、「おいでませ山口観光振興計画(2016(平成28)年度～2020(平成32)年度)」を策定され、観光の振興によって、山口県のブランド価値が高まり、地域における様々な活動が活性化し、その活力が、誰もが訪れ、住みたくなる「山口県」として、更に魅力を生み出していく好循環が創出された持続可能な地域社会を目指す姿としています。

III 本市の観光情勢

(1)現状

■ 本市の観光客数の推移

本市における観光客数を過去10年でみると、2010(平成22)年に山口市観光交流基本計画(2010年度～2017年度)を策定し、目標数値を最終年の2017(平成29)年には観光客数470万人、宿泊者数95万人と設定し、交流人口拡大に向けた取組を推進してきました。

2017(平成29)年の宿泊客数は908,635人で2016(平成28)年の938,341人のピークに対して、若干減少しましたが、日帰り客数は3,926,058人と平成17年市町村合併後の最高値を更新しました。

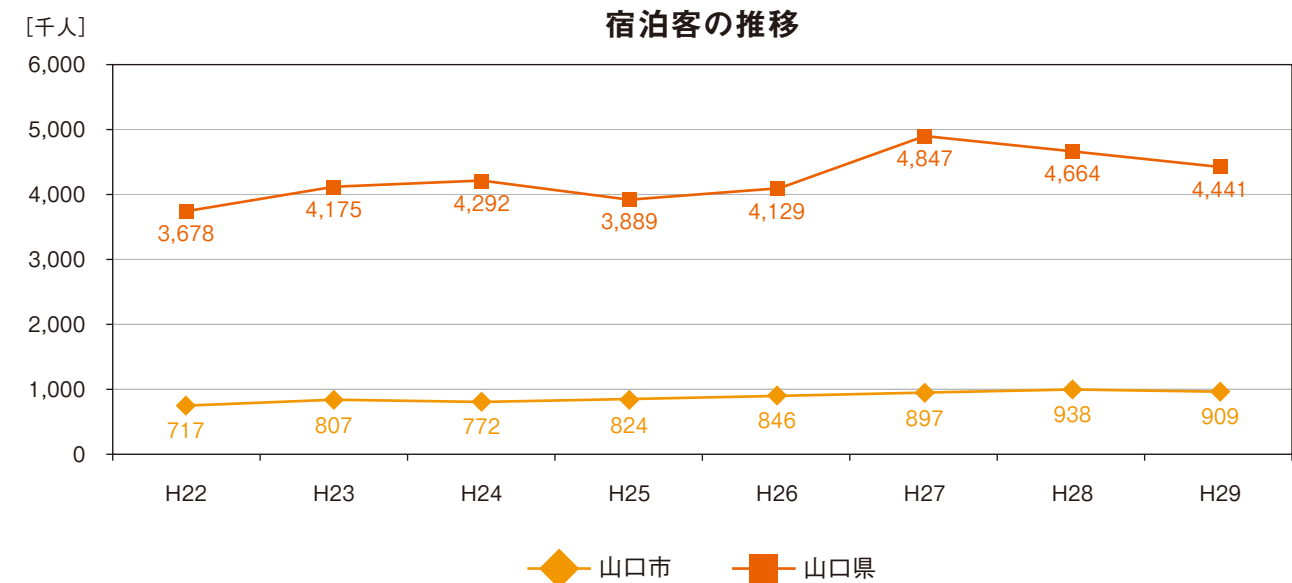
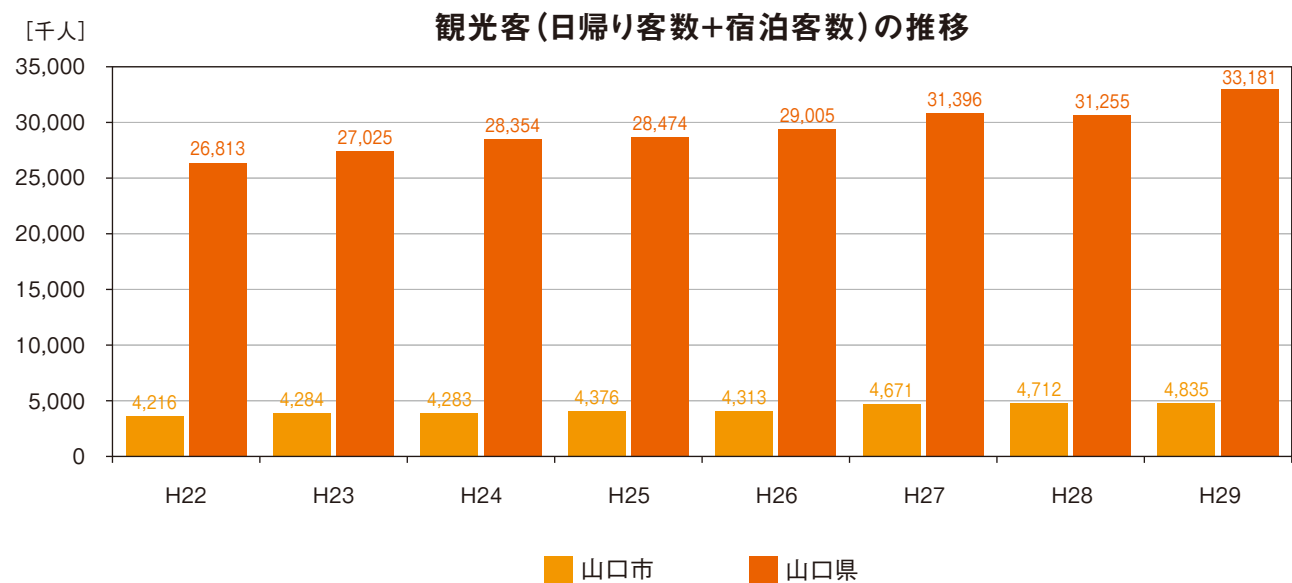
また、外国人観光客数も、2017(平成29)年が87,863人と平成17年市町合併後の最高値を更新しました。これは、山口宇部空港における韓国からの定期便の運航開始や台湾からの連続チャーター便の定着とともに、台湾からのインセンティブツアー^[※]の実施などにより、本市が重点的な市場と位置づける東アジア地域からの観光客数が大きく伸びたことが要因となっています。加えて、現地での誘客活動や、県や観光交流パートナー協定市である美祢市、(一財)山口観光コンベンション協会や湯田温泉旅館協同組合などの関連団体と連携、実施してきた中長期的なプロモーション活動の効果と考えています。

[※]インセンティブツアー 企業が成績優秀な代理店経営者や、大手取引先の経営者などを招待する旅行。

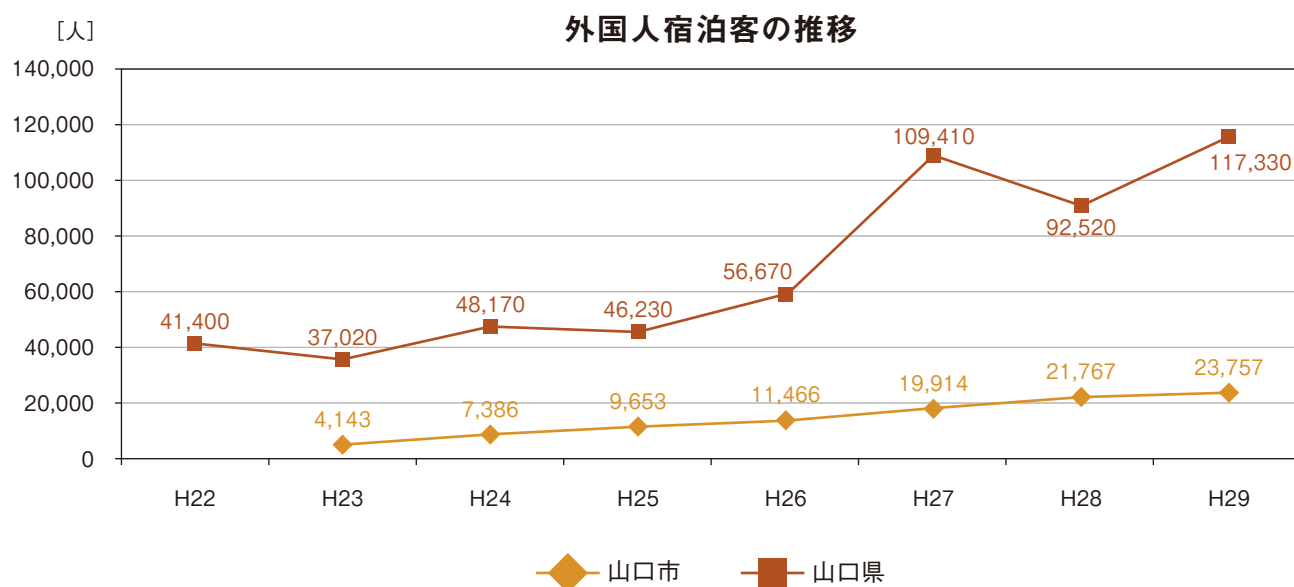
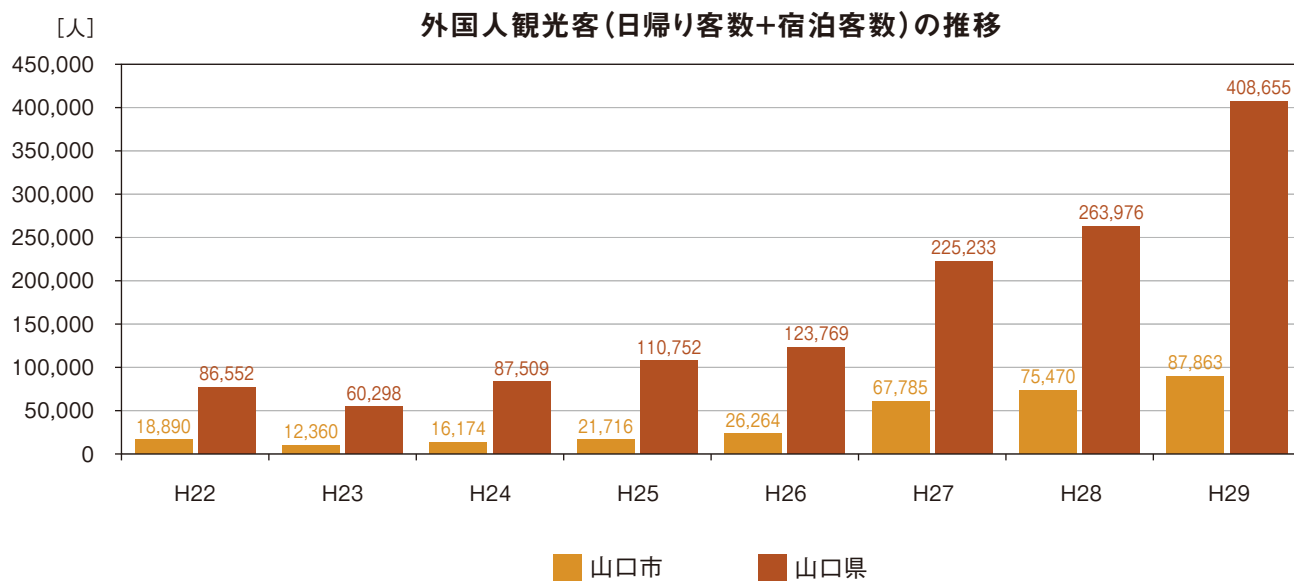
〈山口市観光交流基本計画目標値の振り返り〉 2010(平成22)年度～2017(平成29)年度

目標指標	平成20年 (現状値)	平成29年 (最終目標)	平成29年 (実績値)
年間観光客数	約390万人	約470万人	約483万人
年間宿泊客数	約87万人	約95万人	約91万人

〈観光客数・宿泊客数の推移〉



〈山口市外国人観光客数・宿泊客数の推移〉



◇主な出来事

- 2010(H22) 山口開府650年、湯田温泉復活300年、山口国体リハーサル
- 2011(H23) 山口国体・山口大会、おいでませ!山口イヤー観光交流プレキャンペーン
- 2012(H24) おいでませ!山口イヤー観光交流キャンペーン
- 2013(H25) YCAM10周年記念祭、第16回日本ジャンボリー
- 2014(H26) 中原中也記念館開館20周年、明治維新150年記念事業実行委員会設立
- 2015(H27) 第23回世界スカウトジャンボリー、ねんりんピックおいでませ!山口2015、狐の足あと開館、レノファ山口J2昇格、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」放映
- 2016(H28) 幕末維新やまぐちデスティネーションプレキャンペーン
- 2017(H29) 幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン

■ 人口減少を背景とする交流人口拡大への期待

2015(平成27)年国勢調査において、国、県の総人口も減少が続けている一方で、本市の総人口は約19万7千人と増加に転じました。しかし、今後は、本市の総人口も減少していくものと予想され、長期的には市内全ての地域において人口減少が進むことが予想されます。

国内外からの交流人口をさらに増加させ、地域経済の活性化や雇用の場の確保につなげていくことが重要となります。

■ 本市の観光の優位性

本市は、豊富な観光資源を兼ね備えた観光に優位性のある地域であり、このメリットを生かし、本市資源を生かした観光振興を図ることで、より地域経済に寄与する取組となることが見込まれます。

- ・大内氏関連遺跡や明治維新ゆかりの史跡をはじめとする豊かな観光資源が集積している
- ・行政、教育、文化の中心的拠点が集積している
- ・県の中央部に位置し広域交通の結節点となっている
- ・山陽路随一の湯量を誇る「美肌の湯」湯田温泉がある

(2) 課題

■ 国内市場縮小の中での観光産業の振興

官民一体となり、マーケティング力やマネジメント力を高めて、ターゲットを絞った効果的な観光プロモーションが求められています。また、観光客を増やすだけでなく、より深く本市の魅力を体感していただき、観光消費額を増やすための仕掛けづくり(稼ぐ力を高めること)が重要となります。

■ 急増する外国人観光客への対応

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の好機を生かした積極的な観光プロモーションによる本市の認知度向上が必要となります。また、多様なニーズに合わせた外国人目線での観光案内や交通対策等の環境整備が重要となります。

■ 広域的視点による取組

広域連携を戦略的に進めることで、魅力ある広域観光ルートの創出・定着を図り、観光消費額を増加させることが必要となります。とりわけ、山口県央連携都市圏域[※]を中心とする周遊観光の推進が重要となります。

[※]山口県央連携都市圏域 総務省の「連携中枢都市圏構想」に基づき、2017(平成29)年3月30日に形成した本市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町の7市町で構成する県央部における広域連携の枠組み。

第3章 ビジョンの基本的方向

I 基本理念

「観光立市・やまぐち」の実現 ～観光産業の好循環を目指して～

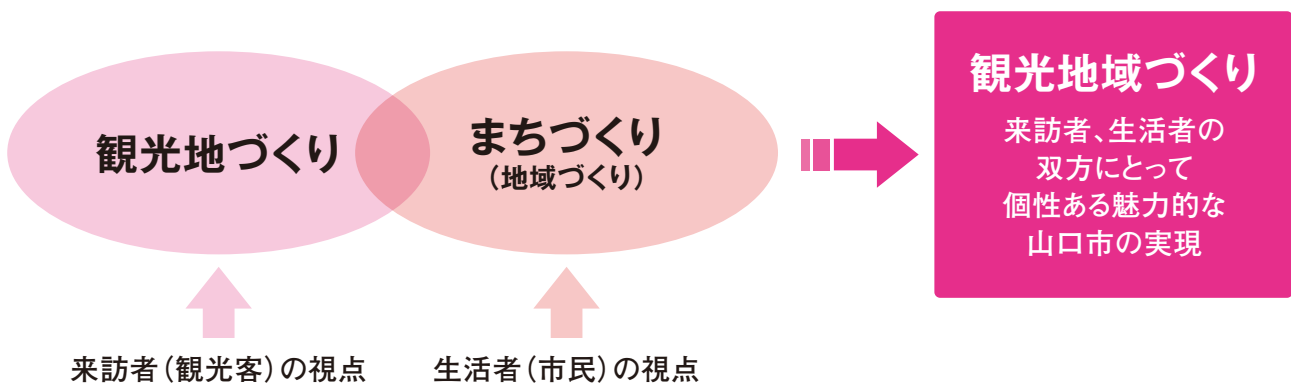
観光産業の裾野は極めて広く、大きな経済波及効果を有する総合産業と言われており、そのポテンシャルは限りなく大きく、地方創生への切り札と考えられています。

また、国内外の熾烈な誘致競争を勝ち抜くことが求められる中、旅行者の嗜好をしっかりと捉えた戦略を構築し、生産性の高い観光産業へ変革していくことが重要となっています。

加えて、本市の第二次総合計画に掲げる「豊かな暮らし 交流と創造のまち山口～これが私のふるさとだ～」の実現に向けた、多様な「人・モノ・資金・情報」が活発に交流するまちづくりを推進する上で、観光産業をしっかりと振興していくことが、有効かつ効果的な施策と位置づけています。

こうした中、これからの本市の観光振興にあたっては、総合計画に基づく施策・事業を着実に実施することで、地域経済を潤し、再生させ、住民にとって誇りと愛着の持てる、活力にあふれた地域経済を築いていきます。さらに、今後の観光によるまちづくりとして、「観光地づくり」と「地域づくり」が一体となった“**観光地域づくり**”の取組を強化・充実することで、観光産業の好循環を図り、「観光立市・やまぐち」を実現していきます。

〈観光地域づくりのイメージ〉



Ⅱ 基本目標

本市の観光客数は、過去10年でみると、明治維新150年(平成30年)に向けた中長期的な取組や大型観光キャンペーンである「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」(平成29年)の取組、新山口駅北口駅前広場の供用開始等による新たな賑わいの創出や周辺市町と連携した情報発信の取組などにより着実に増加しています。

今後、本ビジョンの諸施策を効果的に展開していくにあたり、これまでの山口市観光交流基本計画での実績を礎に、さらなる交流人口の拡大に向けた質の高い観光施策を展開していく考えであり、2027年度までに観光客数(交流人口)600万人、宿泊客数100万人、外国人観光客数16万7千人をめざします。

また、観光地の整備や地域を深く知る観光体験、特産品による誘客促進などの取組により、市内立ち寄り箇所が増え、滞留・滞在時間が増えることで観光消費額の拡大、さらには旅行訪問先として選ばれる魅力を一層高め、来訪・交流効果の最大化を図ります。

基本目標値

成果指標(施策)	単位	基準値 2017年	中間目標値 2022年	最終目標値 2027年
観光客数	人	4,834,693	5,300,000	6,000,000
宿泊客数	人	908,635	950,000	1,000,000
外国人観光客数	人	87,863	117,000	167,000

成果指標名(基本事業)	単位	基準値 2017年	中間目標値 2022年	最終目標値 2027年
湯田温泉宿泊客数	人	515,748	540,000	570,000
外国人宿泊客数	人	23,757	35,000	40,000
観光消費額(山口市内での平均消費額) 【※1】	円	30,327	45,000	50,000
山口市の魅力度 【※2】	位内	240	100	50

【※1】 2017年山口市観光動態アンケート調査 集計・分析報告書より

【※2】 (株)ブランド総合研究所「地域ブランド調査」より

〈参考〉

各地域の観光客数(山口市観光動態調査より)

観 光 客 数		単位	2015年	2016年	2017年
都市拠点	山口	人	2,237,430	2,319,858	2,526,679
	小郡	人	287,382	290,922	302,973
地域拠点	徳地	人	51,675	48,846	46,524
	阿東	人	463,018	431,006	388,439
	秋穂	人	218,694	217,487	206,447
	阿知須	人	1,025,293	921,734	867,612
イベント[※]		人	387,100	481,950	496,019

日本人国内旅行の一人1回当たりの旅行単価(観光庁 旅行・観光消費動向調査より)

	単位	2015年	2016年	2017年
国内旅行全体	円	33,750	32,687	32,606
うち宿泊旅行	円	50,520	49,234	49,732
うち日帰り旅行	円	15,758	15,602	15,526

地域ブランド(株)ブランド総合研究所「地域ブランド調査」より

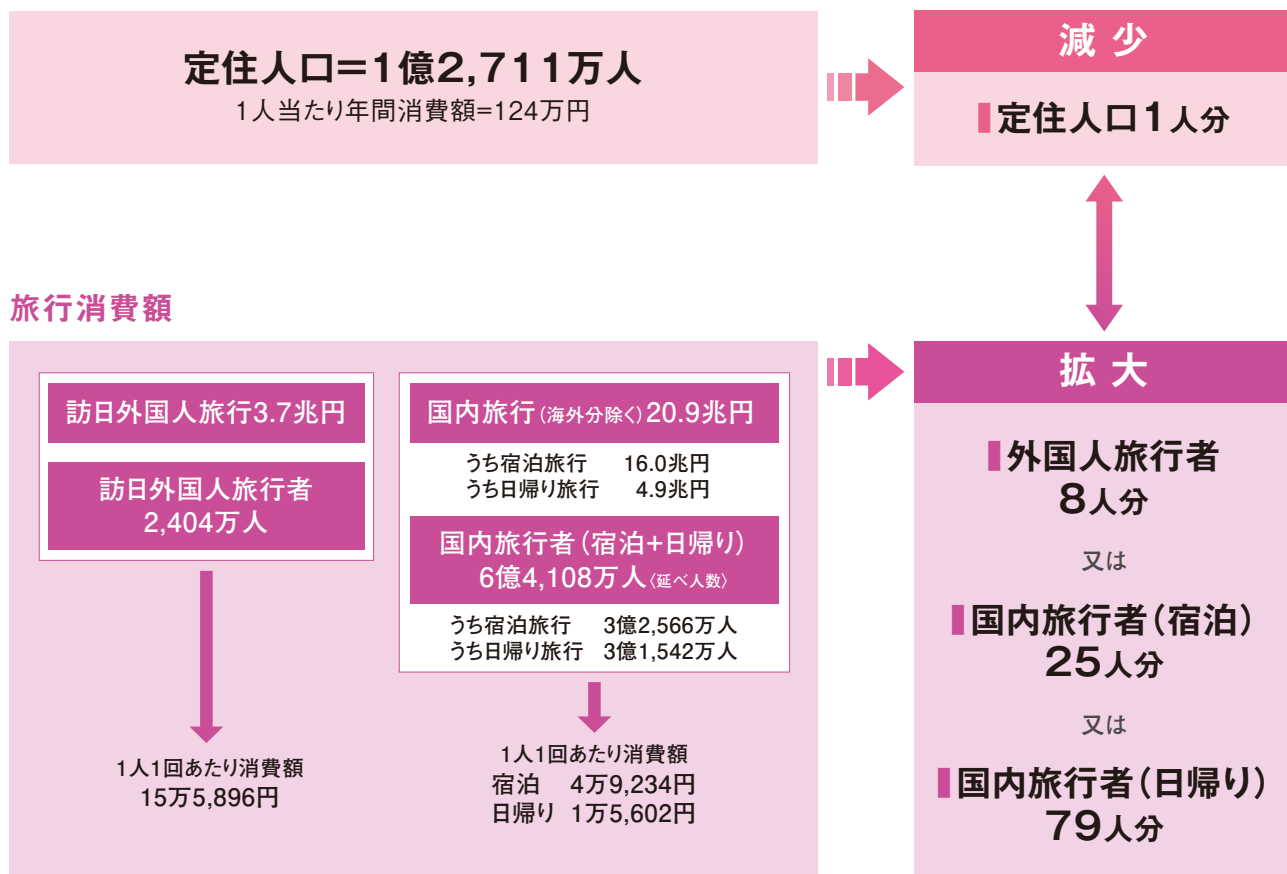
	単位	2014年	2015年	2016年	2017年
山口市の認知度	位	162	174	141	175
山口市の観光意欲度	位	222	225	205	306

[※]山口祇園祭、湯田温泉白狐まつり、山口天神祭、山口七夕ちょうちんまつり、あいお花火まつり、ふしの夏まつり、阿知須浦まつり・花火大会、徳地夏まつり花火大会、阿東桜まつり等

〈観光交流人口増大の経済効果〉2016年

定住人口1人当たりの年間消費額(124万円)は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者8人分、国内旅行者(宿泊)25人分、国内旅行者(日帰り)79人分にあたる。

定住人口1人当たりの年間消費額

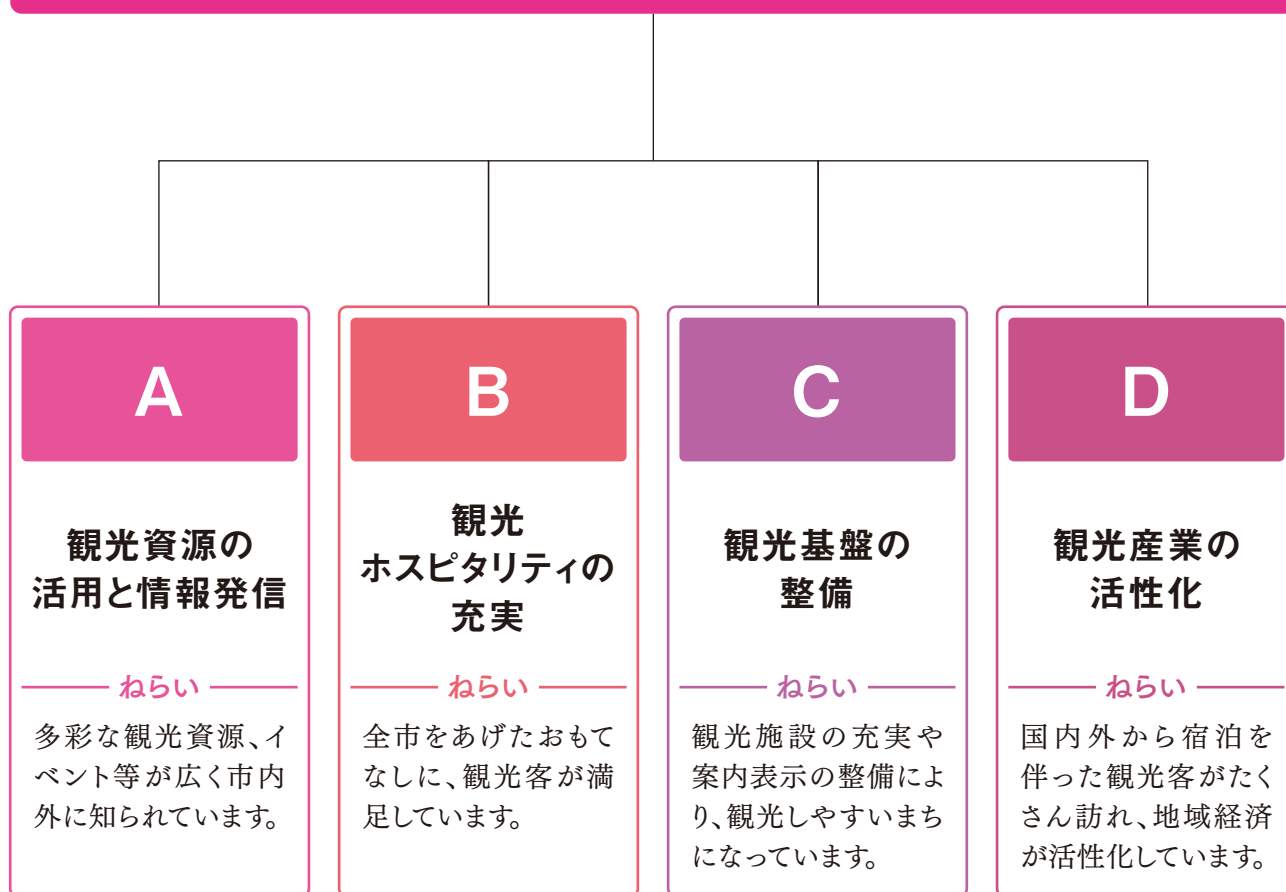


出典:国土交通省観光庁ウェブサイト <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>

Ⅲ 施策の方向性

基本理念に掲げる「観光立市・やまぐち」の実現に向けて、次の4つの視点から計画的かつ戦略的に諸施策を推進します。

「観光立市・やまぐち」の実現 ～観光産業の好循環をめざして～



A 観光資源の活用と情報発信

- a. 観光プロモーションの強化
- b. 滞留・滞在時間の延長
- c. 新たな観光資源の開発や強化
- d. 地域拠点の観光資源の活用

B 観光ホスピタリティの充実

- a. おもてなしの向上
- b. 快適な観光空間づくり

C 観光基盤の整備

- a. 魅力ある観光基盤整備
- b. 魅力ある観光施設運営
- c. 交通ネットワークの利便性向上

D 観光産業の活性化

- a. 観光消費額の拡大
- b. 広域観光の活性化
- c. コンベンションの充実・強化
- d. インバウンドの誘客促進
- e. 他分野との連携
- f. 観光地域づくりの推進

IV ビジョンの施策体系

「観光立市・やまぐち」の実現 ～観光産業の好循環をめざして～

A 観光資源の活用と情報発信

a. 観光プロモーションの強化

観光情報発信の強化

観光情報収集の強化

b. 滞留・滞在時間の延長

滞在型・交流型メニューの充実

市民と観光客の交流拡大

体験型メニューの充実

まち歩き、まち巡りの促進

c. 新たな観光資源の開発や強化

既存観光資源の付加価値化

スポーツツーリズムの推進

アートツーリズムの推進

新たな商品開発

d. 地域拠点の観光資源の活用

特色ある観光地域づくり

B 観光ホスピタリティの充実

a. おもてなしの向上

観光案内人の充実

市民総おもてなし意識の向上

観光関連団体のおもてなし研修の促進

観光案内機能の強化・充実

b. 快適な観光空間づくり

安全・安心な観光地づくり

環境にやさしい観光地づくり

温泉地としての快適な空間づくり

観光地トイレの満足度向上

C 観光基盤の整備

a. 魅力ある観光基盤整備

湯田温泉街基盤整備

大内文化特定地域基盤整備

主要JR駅周辺整備

b. 魅力ある観光施設運営

観光関連施設の魅力拡大

c. 交通ネットワークの利便性向上

交通移動の利便性向上

二次交通対策の促進

D 観光産業の活性化

a. 観光消費額の拡大

宿泊客の増加に向けた取組

湯田温泉の魅力強化と活用

新たな消費機会の創出

観光閑散期の誘客促進

b. 広域観光の活性化

山口県央連携都市圏域連携事業の推進

近隣市町との連携

都市間連携の推進

c. コンベンションの充実・強化

コンベンション誘致支援活動の強化

コンベンション受入体制の充実

国際MICEの受入促進

d. インバウンドの誘客促進

インバウンド受入体制の強化

インバウンド観光誘客の推進

e. 他分野との連携

伝統産業との連携

農林水産業との連携

f. 観光地域づくりの推進

多様な主体の連携による観光地域づくり

A 観光資源の活用と情報発信

本市の観光客数は市内全体では、2017(平成29)年が、4,834,693人で対前年比2.6%増と堅調に推移していますが、2027年までの観光客数600万人の目標に向けては、観光資源の活用と情報発信が必須です。また、現在、地域ブランド調査順位(株式会社ブランド総合研究所)によると、2017(平成29)年の山口市の魅力度の順位は、全国で240位となっており、この順位を上げ、全国でも魅力ある都市としての知名度、認知度を高めることが喫緊の課題となっています。

こうした中、2016(平成28)～2018(平成30)年度における幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン(プレ・アフターを含む)や、2018(平成30)年度までの明治維新150年記念事業において取り組んできた観光資源の掘り起こしや磨き上げを、これからの観光施策においてどのようにつなげ、発展していくか、旅行者に認知され選ばれる強みとして、地域資源の活用と情報発信に取り組みます。

a. 観光プロモーションの強化

情報発信は観光振興において極めて重要な要素となっており、多様なニーズに対応した、きめ細やかな、分かりやすい最新の情報を提供する必要があります。

国内だけでなく海外からの観光客も誘致するため、(一財)山口観光コンベンション協会や(一社)山口県観光連盟・周辺市町と連携した効果的な観光プロモーションを行い、本市の観光地としての認知度を高めていきます。

■ 観光情報発信の強化

メディアを活用した情報発信や、各種キャンペーンやイベントでの情報発信に加えて、インターネットなどで観光情報を発信します。

- ・メディアを活用した情報発信の充実
- ・ICT^[※1]を活用した観光情報発信の強化
- ・SNS^[※2]やブロッガーを通じての情報発信
- ・効果的な媒体を活用した広報宣伝の実施
- ・キャンペーンやイベントなどにおける観光PR活動の強化
- ・旅行商品造成につなげるための旅行エージェント訪問の強化
- ・フィルムコミッションの促進

[※1]ICT Information and Communication Technologyの略。情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスの総称。

[※2]SNS Social Networking Serviceの略。狭義には、人と人とのつながりを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するインターネットを利用したサービス。

■ 観光情報収集の強化

インターネットによるモニター調査や、観光モニターツアーの実施などにより、本市の観光へのニーズや改善点を把握し、効果的な観光施策をするための基礎資料として活用します。

- ・ICTやメディアを活用したインターネットモニター調査の実施
- ・観光モニターツアーの実施
- ・観光動態アンケート調査の実施

b. 滞留・滞在時間の延長

地域を深く味わえる滞在・交流型の観光体験メニューを開発・発信します。また、長い歴史と文化にまつわるまつりや伝統芸能、新しい市民文化から生まれた個性的なイベントなど、市民だけでなく、観光客にとって魅力的なまつりや伝統芸能、イベントを支援することによって、一層の充実を図り、交流人口の増加につなげていきます。

■ 滞在型・交流型メニューの充実

エコ・ツーリズム^{【※1】}やグリーン・ツーリズム^{【※2】}、ヘルス・ツーリズム^{【※3】}などの地域資源を活用した地域密着型ニューツーリズムの充実を図り、新たな事業化を支援します。

- ・地域密着型ニューツーリズム旅行商品の開発促進
- ・古民家再生を活用した滞在型ニューツーリズムの開発

■ 市民と観光客の交流拡大

市民一体となった観光客の受け入れ機運を高め、市民参加による観光活動や、観光客向けのイベント・まつりなどを支援し、市民と観光客との交流拡大を図ります。

- ・市民参加による観光振興企画の推進
- ・古くから伝わる祭りや行事などの伝統文化の充実
- ・大内文化をはじめ、幕末・明治維新期の特色を生かしたイベントの充実

■ 体験型メニューの充実

伝統産業などの体験や、特産品づくりができるプログラムの開発、伝統芸能の鑑賞機会の提供など、体験型メニューの充実に取り組みます。

- ・伝統産業などを体験できる観光プログラムの開発
- ・モノづくりのプログラムの充実
- ・伝統芸能・文化の体験、鑑賞機会の提供

【※1】エコ・ツーリズム 自然環境や歴史文化を対象とし、それらを損なうことなく、それらを体験し学ぶもの。

【※2】グリーン・ツーリズム 農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動（農作業体験、農林漁家民泊、食育など）。

【※3】ヘルス・ツーリズム 自然豊かな地域を訪れ、自然や温泉、身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持するもの。

■ まち歩き、まち巡りの促進

大内文化をはじめ、幕末・明治維新期の特色ある歴史、伝統文化や地域資源などを活用し、観光地や飲食店などを回遊するしゅみを整備します。

- ・史跡を活用した大内文化ゾーンのまち歩き促進
- ・湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」を活用したまち歩き促進
- ・歴史の道「萩往還」のPR促進

c. 新たな観光資源の開発や強化

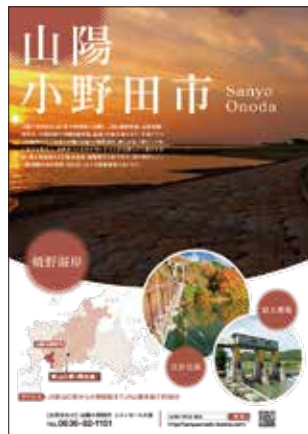
本市の優れた観光資源の中から厳選し、付加価値向上に取り組むとともに、本市の魅力アップやイメージアップ戦略を促進することにより、新たな観光客の確保やリピーター化を図ります。

また、地域固有の特産品や食の開発などによる観光ブランドの創出により、地域の知名度を上げていきます。

■ 既存観光資源の付加価値化

デスティネーションキャンペーン(プレ・アフターを含む)や、明治維新150年記念事業において掘り起こし、磨き上げた観光資源に、新たな付加価値をつける取組を行います。

- ・既存観光資源のブラッシュアップによるブランド化の促進
- ・既存観光資源を組み合わせることで新たな付加価値を創出



7市町紹介パネル

■ スポーツツーリズムの推進

サイクルスポーツやレノファ山口FCなどのスポーツ資源を通じて、プロモーションを展開することで、さらなる交流人口の拡大を図ります。

- ・スポーツ資源を活用したプロモーション促進

■ アートツーリズムの推進

「山口県立美術館」や「山口情報芸術センター」などの文化施設と連携した事業や、アートを活用した誘客事業の実施を推進します。

- ・山口情報芸術センターを核としたアートツーリズムの研究・開発
- ・文化施設と観光キャンペーン事業のタイアップ促進

■ 新たな商品開発

地元の素材を活用した、地域でしか買えないオリジナリティあふれる新たな特産品の開発に取り組み、地域産業の活性化につなげます。

- ・伝統産業との連携による新たな観光商品の開発促進
- ・山口らしさを感じるお土産品の開発
- ・ご当地グルメの開発
- ・キャラクターグッズの制作

d. 地域拠点の観光資源の活用

地域の観光資源の活用と個々の観光資源を有機的に結びつけ、商品造成することで地域の観光地をより魅力的なものとしていきます。

■ 特色ある観光地域づくり

地域独自の観光資源を生かし、市内の地域拠点の特色ある観光地域づくりを促進します。

- ・徳佐りんごなど特産品の収穫体験や地酒人気を背景とした酒蔵見学などの促進
- ・幕末・明治維新期の志士や俊乗房重源上人などの歴史上の人物を生かした観光地域づくり
- ・南部地域における海洋資源の活用



徳佐りんご



秋穂八十八ヶ所お大師まいり

B 観光ホスピタリティの充実

観光地域づくりの主役は地域であり、地域全体で生活文化に根差した、地域独自の観光素材を来訪者にストーリーとして提供し、地域の中を回遊し、地域を愛する人々と来訪者が、ふれあうことを通じて、その地域について語りたい、再び訪れたいと思うことが重要です。

本市がこれまで観光立市として取り組んできた経験を生かし、リピーターや来訪者の裾野の更なる拡大につながる取組を行います。

a. おもてなしの向上

観光客と地域との交流は、旅行の満足度を高める重要な要素のひとつとなっています。全市民が観光客をあたたく迎える「おもてなしの心」あふれるまちをめざすために、ホスピタリティ意識の啓発普及に向けた取組を強化します。

■ 観光案内人の充実

香山公園を中心に行われている観光ボランティアガイドの活動内容や活動エリアの拡大などの取組を支援します。

- ・観光ボランティアガイドの活動への支援充実
- ・有料ガイドの充実
- ・ガイド力向上研修の実施
- ・観光周遊バスなどの新たなガイド活動への展開

■ 市民総おもてなし意識の向上

観光ボランティアガイド等の活動内容のPRなどを通じて、全市民に観光客への「おもてなし」の意識を啓発する取組を推進します。

- ・市民おもてなし講座の実施
- ・観光地におけるおもてなしの声掛け運動の実施

■ 観光関連団体のおもてなし研修の促進

バス・タクシーや宿泊施設など、日頃観光客と接する観光関連団体の職員の案内・マナー研修を強化するとともに、コンベンションや国際・文化関係者及び公共施設職員などについても、観光おもてなし研修を実施します。

- ・観光関連団体へのマナー研修の実施及び支援

■ 観光案内機能の強化・充実

本市を訪れる人が目的地へスムーズに移動できるなど、楽しく利用しやすい観光地域づくりを進めるため、駅や集客施設での観光案内板の統一、パンフレット類の効果的な配置など観光案内所での案内機能の充実を図ります。

- ・観光案内板の統一化
- ・観光案内所の利便性、ホスピタリティの充実

b. 快適な観光空間づくり

本市は、豊富な緑や清澄な水を有する自然に満ちた都市であり、各地域にはその風土に根付いた独自の歴史や文化などが息づいています。こうした独自の歴史や文化を生かす快適な観光空間づくりに取り組みます。

■ 安全・安心な観光地づくり

観光客が安心して滞在できるまちづくりを推進するため、宿泊施設・観光施設でのユニバーサルデザイン化を図るとともに、街路灯・歩道の整備などの道路環境改善などに取り組みます。

- ・観光地のユニバーサルデザイン化^{【※】}
- ・観光地の街路灯や歩道の整備

■ 環境にやさしい観光地づくり

省電力化や再生エネルギーの活用促進、環境美化に努め、美しく環境に優しい都市景観を創出し、まち歩きを誘発します。

- ・街路灯のLED化による省電力化
- ・再生可能エネルギーの活用
- ・観光地における環境美化活動の推進

■ 温泉地としての快適な空間づくり

温泉を活用した足湯の提供などにより、温泉地としての快適な空間づくりを行います。

- ・湯田温泉における清潔で快適に利用できる足湯施設の運営

■ 観光地トイレの満足度向上

主要観光地においてトイレを設置し、快適に観光を楽しめる環境づくりに努めます。

- ・観光地における清潔で快適に利用できる適切なトイレの整備、管理

【※】ユニバーサルデザイン 障がいの有無、年齢や性別、国籍や民族などにかかわらず、誰もが使いやすいように、製品・建物・環境などをデザインすることです。

C 観光基盤の整備

施設開館から年数が経過し、老朽化した観光施設においては、長寿命化に向けた各種改修工事が発生しています。また地域拠点を担う施設においては、地域の活動団体と連動した事業展開が求められており、国・県をはじめ関係機関、関係計画等との調整、整合、連携を図りながら、施設の安定運営及び求められる機能向上に必要な投資を計画的に行っていく必要があります。

a. 魅力ある観光基盤整備

県都のまちなかに位置する湯田温泉や歴史文化遺産が所在する大内文化特定地域、さらには観光の起点となるJR新山口駅などは、観光客のみならず多くの市民も訪れる空間であり、訪れる人にとって快適な空間として魅力を感じることができる観光基盤の整備に取り組みます。

■ 湯田温泉街基盤整備

市街地立地型温泉である特性を踏まえて、観光客に対して、心地よくそぞろ歩きが楽しめ、風情あるまちなか温泉地としての魅力を高めるための空間づくりに取り組みます。

- ・湯田温泉街の魅力的な空間整備
- ・湯田温泉における清潔で快適に利用できる足湯施設の運営（再掲）

■ 大内文化特定地域基盤整備

室町時代に栄えた大内氏の遺跡・文化財や幕末・明治維新期の史跡が多く所在する大内文化特定地域を核として、自然と歴史に育まれた都市景観づくりに取り組みます。

- ・歴史あるまちなみを生かした修景整備
- ・観光案内板の統一化（再掲）

■ 主要JR駅周辺整備

観光客のみならず市民も多く訪れる駅は、まちの玄関口の役割を果たすことから、魅力ある空間づくりに取り組みます。

- ・JR山口駅・湯田温泉駅・新山口駅等の周辺整備
- ・観光案内所の利便性、ホスピタリティの充実（再掲）



JR湯田温泉駅前足湯



JR新山口駅 北口駅前広場サイン

b. 魅力ある観光施設運営

観光施設においては、安定的な施設運営に加え、魅力ある企画や訴求力のあるイベント展開などに加えて、地域や観光産業事業者などと連携した自主事業を充実することで交流人口の更なる拡大が期待できます。

■ 観光関連施設の魅力拡大

時代の変化や多様なニーズを的確に捉え、訪れたい観光施設となるよう施設の機能を最大限に活用し、地域と連携した回遊につながる事業の充実を図ります。

- ・観光関連施設(山口市菜香亭、十朋亭維新館など)の魅力ある運営の促進
- ・魅力ある企画や訴求力あるイベントの実施
- ・指定管理施設(重源の郷、秋穂荘、狐の足あとなど)における自主事業の充実



十朋亭維新館



秋穂荘

c. 交通ネットワークの利便性向上

本市には、多くの観光資源が広範囲に点在していることから、観光客にとって利用しやすい市内交通、分かりやすく便利な移動手段の提供など、快適な移動環境の整備、施策に取り組めます。

■ 交通移動の利便性向上

地域間をつなぐ交通網を充実させ、市民、観光客ともに使いやすい交通インフラの整備に努めます。

- ・交通結節・アクセス機能の強化と整備
- ・山口都市核～小郡都市核(JR新山口駅)～山口宇部空港を結ぶ交通アクセスの向上
- ・ニューツーリズムを促進する中山間地域や南部地域内を循環する道路網の整備

■ 二次交通対策の促進

観光客の多様な交通ニーズに対応するため、鉄道・バス・タクシー・レンタカーなど交通事業者との連携を進め、市民、観光客ともに使いやすいことに配慮した交通インフラの整備に努めます。

- ・交通事業者との連携事業の強化(観光周遊バス・乗合観光タクシー、レンタカー活用など)
- ・JR山口線の利用促進と沿線における観光地域づくりとの連携
- ・レンタサイクルの普及促進、環境づくりの整備

D 観光産業の活性化

持続可能な観光振興を図る上で、「稼げる観光産業」を育成することが求められています。また、民間の力が最大限発揮できるような観光地域づくりの環境整備が重要であり、観光客の滞在時間を増加させ、滞在消費の喚起につながる仕掛けづくりに取り組みます。

a. 観光消費額の拡大

観光による消費には、宿泊費をはじめ、交通費、飲食費、土産購入費などありますが、消費の拡大には、地域独自の商品やサービスのブランド力を高めていくとともに、消費する機会を創出することが重要な戦略となっています。

豊かな地域資源を活用し、組み合わせることで新たな付加価値を生み出し、観光消費額の増加を図るとともに、観光客が市内で消費したくなる機会を拡大するような仕組みづくりに取り組みます。

■ 宿泊客の増加に向けた取組

旅館やホテルなどの宿泊産業と飲食産業が協働で、泊食分離や地産地消などに取り組むことで、地域産業の活性化に大きな効果をもたらします。

また、ライトアップやイルミネーションによる光の演出など、夜の魅力づくりを充実し、宿泊の促進を図ります。

- ・宿泊施設のおもてなしの向上と魅力づくりの促進
- ・地元食材を活かした料理の提供促進
- ・宿泊産業と飲食産業の連携による誘客事業の促進
- ・イルミネーションやライトアップによる夜の魅力スポットの整備
- ・平日の宿泊客増加に向けた誘客プログラムの造成、プロモーションの促進



山口ゆらめき回廊



山口・湯田温泉 ふくまつり

■ 湯田温泉の魅力強化と活用

湯田温泉は、800年という全国的にも古い歴史を持ち、県の中央部に位置することから、周遊観光の拠点としての利便性が高く、また、県下最大の宿泊受入能力を有しており、市街地である特性を生かしたまちなか温泉の魅力強化に取り組みます。

- ・湯田温泉街の賑わいの創出
- ・湯田温泉と都市核、地域拠点をつなげる旅行商品造成の促進
- ・県の中央部に位置する立地を生かした近隣市町の観光地との連携強化
- ・集中管理方式である温泉の安定供給の支援
- ・湯田温泉多世代交流・健康増進拠点施設整備事業との連携



湯田温泉 井上公園足湯



湯田温泉 酒まつり

■ 新たな消費機会の創出

地元の農林水産品などの素材を活用した、その地域でしか買えないオリジナリティあふれる新たな特産品の開発を促進し、地域産業の活性化につなげます。

- ・道の駅における地産地消の推進
- ・ご当地グルメの開発、物産展などの開催支援
- ・観光・物産の連携体制の強化



秋穂の車エビ



阿知須のくりまさる

■ 観光閑散期の誘客促進

比較的観光客が少ない時期をターゲットとした新たなイベントの創出を図り、年間を通じて、市民や観光客で賑わう持続可能な観光地づくりを推進します。

- ・閑散期における誘客事業の充実

b. 広域観光の活性化

山口県央地域の魅力的な観光地と連携し、一体的に売り出すことで、スケールメリットが発揮でき、大きな経費が必要な事業も実施することが可能となることから、これまで以上に積極的な広域観光に取り組みます。

また、本市の交通結節点としての優位性を生かして、近隣市町や県境を越えた都市・地域と、それぞれの魅力を補完・連携することで相乗効果が発揮できる都市間連携を推進します。

■ 山口県央連携都市圏域連携事業の推進

2021年開催予定の「周遊型博覧会」に向けて、山口県央連携都市圏域推進協議会と連携を図りながら、地域資源・産業の連携によるその地域にしかない魅力の創出など、博覧会全体での取組の基礎となる観光地域づくりに取り組みます。

- ・山口県央連携都市圏域推進協議会との連携
- ・新たな魅力を付加したプログラムの造成

■ 近隣市町との連携

地域経済の活性化を図るためには、近隣市町と連携して経済活動などを広域的に支える人口60万人から70万人の圏域の形成、いわゆる「広域経済・交流圏」を形成していく必要があります。観光産業においても、近隣市町と連携した広域的な観光が求められており、それぞれの市町の特性が発揮できるよう、相互に連携、補完関係を築いていきます。

- ・湯田温泉を起点とした滞在型周遊観光の推進
- ・県内統一観光キャンペーンやJR西日本などの交通事業者とのタイアップの推進
- ・SL「やまぐち」号を活用した宿泊促進事業の実施

■ 都市間連携の推進

歴史や文化などの関わりが深い都市や、共通したテーマ性のある都市との連携と交流を深め、互いの地域特性を生かし合い、補完することによって、地域の活性化を図ります。

また、民間等が主体となった他地域との交流事業に協力しながら、観光交流から経済交流につながるような新たな人の流れを創ることに努めます。

- ・多様な都市間ネットワークの形成
- ・せとうちDMO^{〔※〕}との連携
- ・明治維新150年を契機とした薩長土肥のゆかりの都市との連携
- ・国際交流都市との連携

〔※〕せとうちDMO 情報発信・マーケティングプロモーション・プロダクト開発支援を行い瀬戸内海の観光産業活性化に取り組む官民が連携した組織です。

c. コンベンションの充実・強化

学会や展示会、集会、大会など一定の期間にわたり多くの人が訪れるコンベンションは、宿泊を伴うだけでなくエクスカーショ(体験型見学会)などの観光需要が期待できます。

また、コンベンションは、本市の都市(まち)としてのブランドイメージを一度に多くの人へ発信し、知名度を高めることができることから、重点的かつ継続的なコンベンションの誘致活動の強化、受入体制の充実などに取り組みます。

■ コンベンション誘致支援活動の強化

(一財)山口観光コンベンション協会を中心に、コンベンションの主催となる各種団体や、民間企業とのより一層の連携強化に努め、コンベンションの誘致支援活動を推進します。

- ・コンベンション情報発信の強化
- ・コンベンション誘致活動の強化

■ コンベンション受入体制の充実

多様なコンベンションニーズに対応するため、既存の公共施設や大学等との連携、情報共有を図るとともに、大規模コンベンションに対応できる機能の整備充実を図ります。

- ・大規模コンベンション体制の整備
- ・新山口駅北地区拠点施設との誘客連携
- ・既存の公共施設や大学等の有効活用
- ・アフターコンベンションプログラムの充実

■ 国際MICEの受入促進

経済・消費活動の裾野が広く、滞在期間が比較的長いことから、大きな経済効果を生み出すことが期待される国際MICE^[※]の受入を促進します。

- ・国際MICE受入の情報発信・誘致活動の強化
- ・国際MICE受入体制の整備

[※]MICE 企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

d. インバウンドの誘客促進

急速に発展する国際観光市場において、外国人観光客や在日外国人を誘致するために観光の国際化を図るとともに、山口県との連携による海外向けの観光宣伝や観光施設等における情報提供の充実を図ります。

■ インバウンド受入体制の強化

東アジア及び東南アジア地域に加え、欧米豪を重点市場と位置づけ、観光情報の国際化や、宿泊施設の整備などを行い、受入体制を強化、促進します。

- ・観光パンフレットや観光ホームページ、観光案内板の整備
- ・多様な文化に対応した宿泊施設等の受入環境整備
- ・まちあるき事業促進のための地域通訳案内士^[※]の育成
- ・ストレスフリーな環境整備の促進

■ インバウンド観光誘客の推進

せとうちDMOをはじめ中国地方5県等との広域連携や、友好・姉妹都市提携を活用した宣伝・誘客活動により、外国人観光客の誘致に取り組みます。

- ・広域連携や友好・姉妹都市提携を活用した誘客促進
- ・大学と連携した留学生観光大使の育成
- ・着物体験やものづくり体験などの支援事業の拡充
- ・重点市場である東アジア・東南アジアに加え欧米豪に向けた誘客事業の強化



山口市葉香亭の着物体験

^[※]地域通訳案内士 特定の地域内において、「報酬を得て、通訳案内(外国人に付き添い、外国語を用いて、旅行に関する案内をすることをいう。)を業とする者。」とされています。特定の地域において、その固有の歴史・地理・文化等の現地情報に精通した者であり、各自治体が行う研修受講を通じて「地域通訳案内士」として登録を受けた方々になります。

e. 他分野との連携

地域固有の特産品や食の開発などによる観光ブランドの創出は、地域の知名度を上げることにつながり、情報発信力が強くなり大規模なイベントの誘致や企業の進出が期待できます。

本市の恵まれた自然や風土の中で親しまれ、培われてきた「食材」、「特産品」の中から逸品を選定し、付加価値向上に取り組むとともに、大都市圏等をターゲットとした本市の魅力アップやイメージアップ戦略を促進することにより、新たな観光客の獲得や既存観光客のリピーター化を図ります。

■ 伝統産業との連携

伝統的工芸品や特産品を活用した新たな観光商品の開発や観光PRに対して、民間事業者などの協力、支援を図りながら観光産業の生産性を高めます。

- ・伝統産業との連携による新たな観光商品の開発促進(再掲)
- ・伝統産業などを体験できる観光プログラムの開発(再掲)

■ 農林水産業との連携

観光客を引きつける重要な要素として、「豊かな自然」と「食」の魅力があります。本市が有する豊かな自然とその恵みを、農林水産業との連携を強め、体験型観光や「食」の魅力づくりに活用していきます。

- ・滞在・体験型観光の推進
- ・農畜産品、水産品などのブランド化の促進

f. 観光地域づくりの推進

観光地域づくりを推進する上で重要なことは、観光関連産業(宿泊業、旅客運輸業、飲食業等)にイノベーション^[※]を喚起させ、新たな業種や業態を生み出し、雇用を創出させることです。その実現を図るために、プラットフォーム的組織としての「山口市版DMO」機能を確立し、様々な地域の人や組織と連携を図りながら、観光地域づくりを推進します。

■ 多様な主体の連携による観光地域づくり

地域が抱える様々な課題解決に向け、関係者の合意形成や多様な観光資源を生かした総合的な観光地域づくりの取組を推進するための「山口市版DMO」機能について、推進体制など民間団体を中心に研究を行います。

- ・山口市版DMO機能の研究(新たな財源確保)
- ・(一財)山口観光コンベンション協会のマネジメント機能の充実
- ・観光関連産業団体の育成

[※]イノベーション 経営革新。商品やサービスの革新。顧客にとって新しい価値を創造すること。

第4章 先導的プロジェクト

基本理念に掲げる「観光立市・やまぐち」の実現と観光産業の好循環を目指して、先導的かつ重点的に取り組む2つの重層戦略と、それらを実現するために注力する事業を「先導的プロジェクト」と位置づけ、第二次山口市総合計画、前期基本計画に合わせて、2022年度を目標年度に事業展開します。

とりわけ、2020年に開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめ、2021年開催の山口県央連携都市圏域における周遊型博覧会や、2021年に竣工予定の新山口駅北地区拠点施設整備など、本市の観光需要において、さらなる誘客に向けた好機を迎えます。

一方では、交通手段の発達やICTなどの普及等による観光情報の入手の容易化等による観光地間の競争は激化し、さらには、観光客のニーズの多様化に伴い、団体旅行から個人旅行へと旅行形態がシフトし、地域には大都市圏からの送客を旅行業者に依存してきた状況からの脱却などが求められています。

こうした刻々と変化する観光をとりまく環境に対応すべく、本市は、人と人、人と地域、人と都市などの交流が重層的につながるまちを創造し、来訪・交流効果の最大化を図っていきます。

〈期間〉

山口市観光交流加速化ビジョン

2019～2027年度（9年間）

先導的プロジェクト

2019～2022年度（4年間）

- ◆2020年 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催
- ◆2020年 日本博開催
 - ◆2021年 新山口駅北地区拠点施設竣工（予定）
 - ◆2021年 山口県央連携都市圏域における周遊型博覧会開催

人と人、人と地域、人と都市などの交流が重層的につながるまちを創造し、
来訪・交流効果の最大化を図る。（イメージ図）

多様な主体の活力を引き出す
『活躍プロジェクト』

観光の質を高める地域資源の
『フル活用プロジェクト』

I 多様な主体の活力を引き出す『活躍プロジェクト』

これまで行政と観光事業者・団体が観光の中心的役割を担い集客主体の観光地域づくりに取り組んできましたが、観光による地方創生、地域活性化が、これまで以上に求められています。

また、観光誘客により地域全体の利益を向上させるなど、地域を活性化させる日本版DMOの取組も全国各地で動き出しているところであり、今後は、NPO、民間事業者、市民などの多彩な担い手が観光に関わり、活躍できる体制を重点的かつ持続的に整えます。その中核的な役割については、(一財)山口観光コンベンション協会などをはじめとする観光推進組織が担い、けん引していける環境づくり、体制づくりを強化し、より柔軟性のある観光施策を展開し、地域の活性化に結びつけていきます。

(1) 市民活躍プロジェクト

市民や地域づくり協議会、市民団体をはじめ、市内の民間事業者、宿泊施設、飲食店、お土産店、交通事業者などが活躍できる支援体制づくり、環境づくりに取り組めます。

(2) 観光関連団体活躍プロジェクト

行政、(一財)山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合をはじめとする市内の観光推進組織が一体となった、DMO機能の役割を担う組織体制づくり、事業づくりに取り組めます。

(3) 観光施設活躍プロジェクト

市の指定管理施設である観光や文化などの交流施設(狐の足あと、秋穂荘、願成就温泉センター、重源の郷、山口市菜香亭など)が賑わい、活躍できる環境づくり、運営体制づくりに取り組めます。



湯田温泉白狐まつり



重源の郷 藍染め体験



一の坂川 人力車(山口市菜香亭)



「12月、山口市はクリスマス市になる。」

(1) 市民活躍プロジェクト

市民や地域づくり協議会、市民団体をはじめ、市内の民間事業者、宿泊施設、飲食店、お土産店、交通事業者などが活躍できる支援体制づくり、環境づくりに取り組みます。

- ・山口の魅力や歴史を知る機会、まつりへの参画機会の創出（SL運行環境、地域のまつり、地域人材育成活動など）
- ・観光地域づくりに資するチャレンジ機会の創出
- ・市民総参加おもてなし案内人事業によるシビックプライドの醸成
- ・観光産業と異業種産業との交流による新たなビジネス機会の創出

(2) 観光関連団体活躍プロジェクト

行政、(一財)山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合をはじめとする市内の観光推進組織が一体となった、DMO機能の役割を担う組織体制づくり、事業づくりに取り組みます。

- ・ポスト明治維新150年の一体的な事業展開
- ・山口県央連携都市圏域における「周遊型博覧会」に向けた事業展開
- ・持続的な地域マネジメントの仕組みづくりと推進体制の確立（新たな財源確保）

(3) 観光施設活躍プロジェクト

市の指定管理施設である観光や文化などの交流施設（狐の足あと、秋穂荘、願成就温泉センター、重源の郷、山口市菜香亭など）が賑わい、活躍できる拠点環境づくり、運営体制づくりに取り組みます。

- ・安定かつ健全な施設運営体制の強化
- ・観光地域づくりに資する地域との連携強化
- ・施設と地域資源のコラボレーションによる魅力拡大

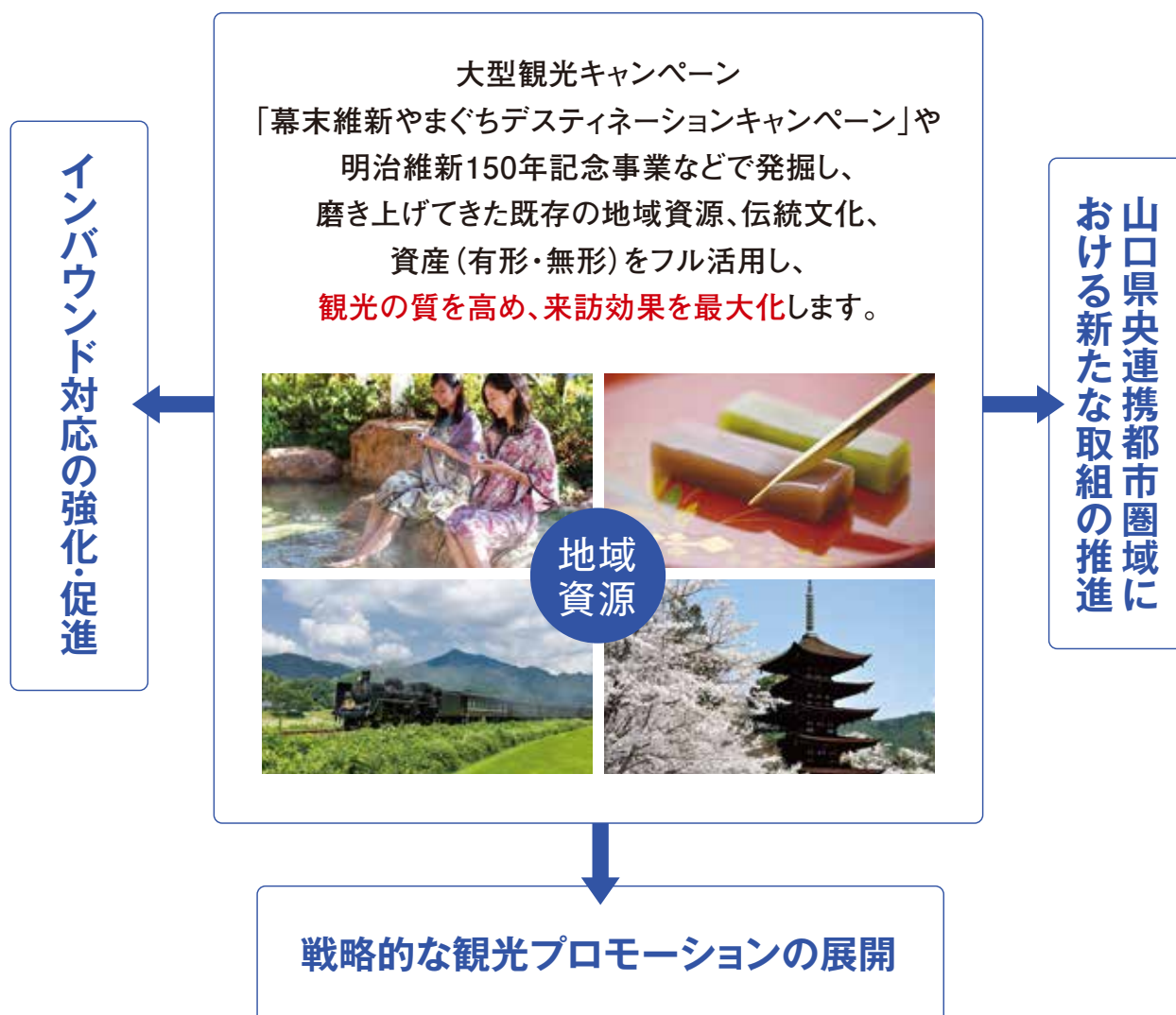


山口セタちようちんまつり

Ⅱ 観光の質を高める地域資源の『フル活用プロジェクト』

本市は、2017(平成29)年の「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」において、市内全域で魅力ある観光素材を掘り起こし、着地型旅行商品として、造成・発信することで、山口県全体の交流人口は前年度対比で、6.2%の増加、観光客数は33,180,865人に、本市の交流人口も前年度対比で、2.6%の増加、観光客数は4,834,693人に達しました。また、2018(平成30)年に明治改元から150年の節目を迎えるにあたって、まちあるきなどのソフト事業に加えて、十朋亭維新館などの新たな交流拠点を開館させるとともに、2014(平成26)年から「明治維新150年記念事業実行委員会」が立ち上がり、市民・民間・行政が一体となって、本市の強みである歴史・文化という地域資源を交流人口の増加につなげる取組で、都市としての新たな価値を高め、誘客の成果をあげてきました。

こうした大型観光キャンペーンなどの取組に加え、都市部も農山村も共に発展するまちづくりに向けた挑戦をスタートした第二次山口市総合計画では、その取組の効果を市内全体へと波及、拡大させていくこととしており、これまでの交流人口増加の勢いを市全域の観光振興と地域経済の活性化につなげるため、地域資源をフル活用していきます。



(1)戦略的な観光プロモーションの展開

観光によるまちづくりは、地域の取組の成果として、その地域を訪れる旅行者が増加することによって実現されることであり、地域の様々な取組をいかに旅行者の行動につなげるかが重要となります。そのためには、地域の観光素材を「観光商品」に組み込み、市場に対して積極的・戦略的にマーケティング活動を行っていくことが不可欠となります。

プロモーションのための観光素材の更なる磨き上げや、ターゲットや目的を明確とした戦略的な情報発信により、市場のニーズや地域の情勢・特性に応じたプロモーション戦略を実施し、誘客を促進します。

■ 戦略的な情報発信

SNS等を活用し、観光客自身が情報を拡散したくなる仕掛けを構築します。

- ・ICTの活用、ターゲットプロモーションの強化

■ 民間と連携した情報発信

フィルムコミッションによるロケ誘致やメディアや旅行会社などへの積極的な売り込み活動を民間と連携して行います。

- ・フィルムコミッション事業の促進とロケ地誘致に向けた効果的な営業
- ・民間ノウハウを活かしたセールスプロモーション

■ 関係都市と連携した情報発信

明治維新150年を契機とする薩長土肥など、本市の長い歴史の中で培われた歴史的・文化的なかかわりがある都市と連携し、効果的な事業やプロモーションを展開します。

- ・明治維新150年を契機とした薩長土肥ゆかりの都市間交流の促進
- ・大学や民間事業者と連携した都市間交流の促進

■ テーマ別観光を生かした情報発信

エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズム、ヘルス・ツーリズムや、海洋資源を活用した多角的な視点でのツーリズムなどを組み合わせることで新たな観光素材としての魅力を発掘します。

- ・ふるさとにぎわい計画(地域再生計画)との連携による観光地域づくりの推進
- ・「食」「健康」「美」などをテーマとした旅行商品の開発

■ スポーツ・文化等と連携した情報発信

サイクルスポーツやプロスポーツチームとの連携による賑わいの創出や芸術、文化など本市の様々な資源を発信することで、交流人口の拡大と滞在消費額の増加を図ります。

- ・スポーツツーリズムの推進(サイクルスポーツやレノファ山口FCとの連携等)
- ・アートツーリズムの推進(日本博などとの連携)



ツール・ド・山口2018



レノファ山口FC応援風景

■ 温泉地と連携した情報発信

「温泉」と「歴史」「文化」「食」を生かした滞在型観光を目指し、地域と連携した取組を図っていきます。

- ・湯田温泉知名度向上のための他分野とのマッチングの推進
- ・夜の魅力スポット・まちあるき環境の整備
- ・湯田温泉と観光地をつなぐ仕組みづくりの促進

(2) インバウンド対応の強化・促進

国においては、2020年までに訪日外国人観光客数4,000万人等の目標達成に向け、急速に進む個人旅行化とそれに伴う地方への展開、体験型観光への関心といったインバウンドの変化に対応した高次元の施策の具体策について検討がなされています。

こうした中、本市としても、急増する外国人観光客への対応として、重点市場と位置づけている東アジア・東南アジアに加え、欧米豪の外国人観光客の獲得に向けた誘客プロモーションに取り組めます。

また、外国人観光客は増加しているものの、誰もが一人歩きできるような環境など、地域全体としての受入意識や設備等が不足していることから、受入環境の整備を行います。

■ 地域資源を活用したインバウンド向け商品の開発

本市の豊かな自然や、歴史と文化にまつわるまつりや伝統芸能など地域資源を活用した魅力あるインバウンド向け商品の開発に取り組めます。

- ・インバウンド向け体験メニューの開発
- ・古民家などを活用した商品造成の開発

■ インバウンド新時代に向けた国際観光の推進

ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた、外国人観光客の受入体制の整備を図ります。

また、外国人観光客が突出している「広島」「福岡」との間に位置する立地などを生かし、双方向交流の推進を図ります。

- ・東アジア・東南アジアへ向けたプロモーション活動（商談会・旅行博）の実施
- ・ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした周遊型観光の推進

■ 外国人観光客の受入環境整備

外国人観光客が快適に旅行を楽しめるよう、多様なニーズに合わせた外国人目線での観光案内や交通対策等をはじめ、地域の歴史、文化、地理、自然等について質の高い通訳案内の充実などストレスフリーな受入環境整備に取り組みます。

- ・ICT活用による観光施設の整備
- ・キャッシュレス決済導入の検討
- ・地域通訳案内士の育成
- ・多様な文化に対応した受入環境の整備
- ・宿泊施設のインバウンド対応の支援

(3) 山口県央連携都市圏域における新たな取組の推進

持続可能な圏域の実現に向けた、7市町広域連携（山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町）による地域資源を活用した周遊型観光の推進を通じて、圏域内外からの来訪効果の最大化を図ります。

とりわけ、2021年に開催が計画されている「周遊型博覧会」については、「文化・街道・自然・歴史・伝統的工芸・食・産業・アート」などをテーマに、地域を巡る広域周遊促進の取組が検討されているところであり、本市の広域観光施策との一体化を図っていきます。

■ 山口県央連携都市圏域を中心とする周遊型観光の推進

7市町広域連携による地域資源を活用した周遊型観光の推進を図ります。

- ・テーマ別観光による観光圏域づくりの推進
- ・「周遊型博覧会」によるまちあるき、体験プログラムの開発
- ・合同プロモーションの実施

■ 地域拠点における交流中核施設の整備の充実

市の指定管理施設などを活用し、地域と連携したイベントの実施など周遊型観光の推進を図ります。

- ・指定管理施設の運営強化・リニューアルによる交流施設の充実
- ・地域関係者が幅広く関わり、交流施設を盛り上げる地域力の充実

■ 新山口駅観光交流センターの情報発信機能の充実

陸の玄関として、快適な駅空間と交通結節点としての機能を有する新山口駅北口駅前広場において、本市及び周辺市町の観光、産業、文化、スポーツ等の情報の発信、提供を行うとともに、新山口駅周辺における多様な交流の促進を図ります。

- ・観光コンシェルジュの充実
- ・新山口駅北口観光案内所のJNTOカテゴリー3^[※]を目指した案内所機能の強化

■ 温泉地を経由する周遊観光の仕組みづくり

周遊観光の滞在拠点となる湯田温泉ゾーンから大内文化ゾーン、さらには市内観光地への誘客を促す仕組みを構築します。

- ・湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」の活動促進
- ・湯田温泉と観光地をつなぐ仕組みづくりの促進(再掲)

■ 二次交通・三次交通の整備

交通事業者や観光事業者と連携し、新山口駅や山口宇部空港からのアクセス整備(二次交通)や市内観光地間移動(三次交通)の利便性向上を図ります。

- ・持続可能な観光周遊バス運行等の考察
- ・インバウンド誘客促進のための貸切バス運行補助事業の実施



観光周遊バス



新山口駅観光交流センター

[※]JNTOカテゴリー3 日本政府観光局(JNTO)が認定する外国人案内所で、フルタイムで英語、中国語、韓国語で対応可能なスタッフが常駐しているもの。

第5章 ビジョンの推進方策

観光は産業面だけでなく、政策の面から見ても、横断的・複合的な性格が強く、地域で展開される幅広い分野の政策と関連していることから、これらの取り組み主体がそれぞれ期待される役割を果たし、地域が一体となって観光地域づくりに取り組むことが求められています。

また、成熟した国内観光市場、急速に発展する国際観光市場において、国内旅行者、訪日外国人観光客の新たなターゲット層の需要喚起をどう図るのか、地域での滞在時間を延ばし、観光消費額をどう向上させるのかなど、観光地におけるマーケティングとマネジメントのあり方が問われています。

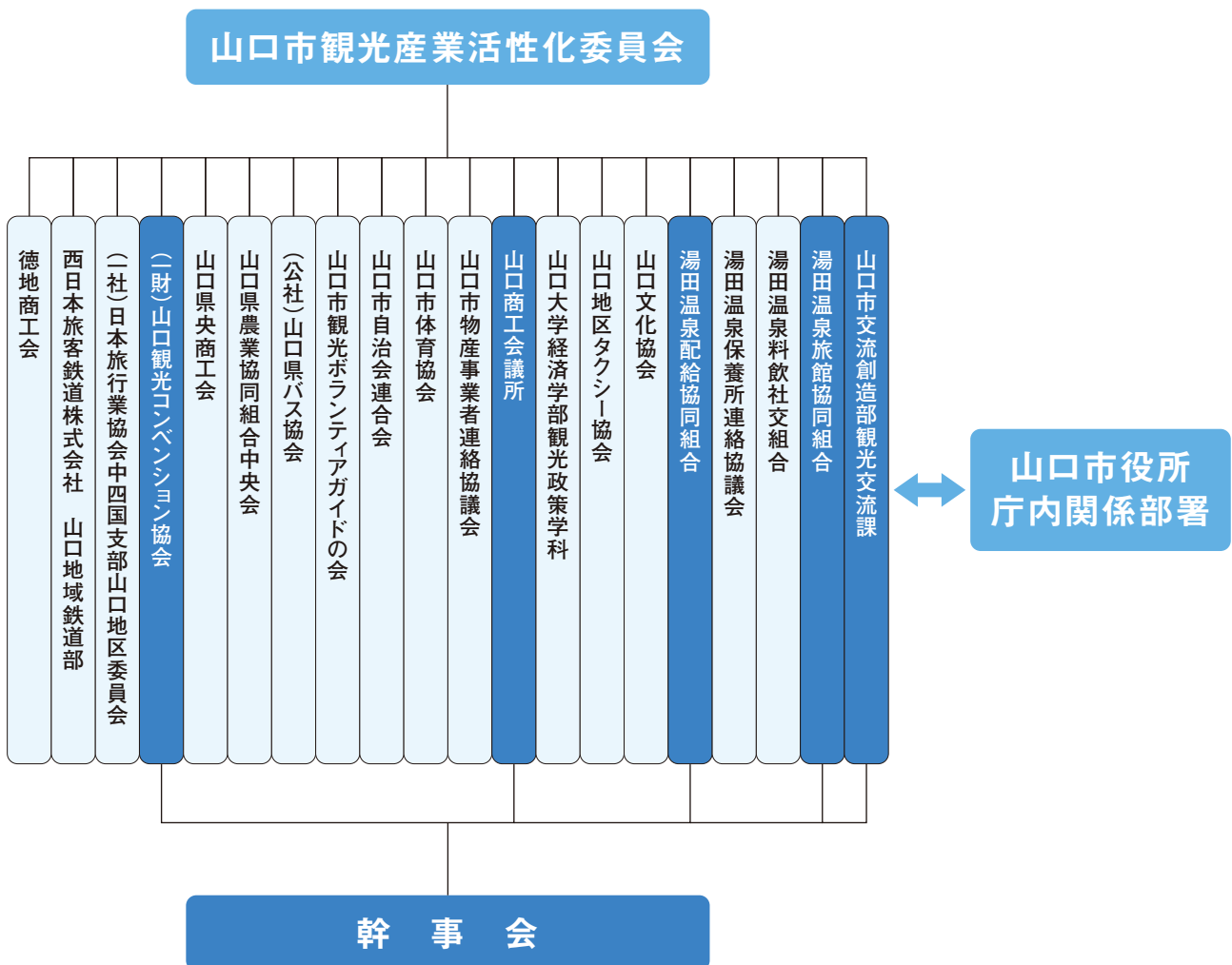
こうした中、本市は第二次山口市総合計画(2018年度～2027年度)を上位計画として、本ビジョンを部門計画として位置づけるところであり、加えて、観光振興に関わりが強く、新たに策定する山口市スポーツ推進計画(2019年度～2022年度)や山口市文化振興ビジョン(2020年度～2027年度)、山口市国際化推進ビジョン(2020年度～2027年度)、さらには、歴史、伝統文化が息づく本市において、2019(平成31)年度に山口市歴史文化基本構想を策定予定であり、文化財である大内氏遺跡などの歴史的建造物や遺跡について、保存だけでなく活用することが求められる中で、これらの部門計画などとの施策・事業の連携を図りながら、観光によるまちづくりを確かなものにしていきます。

本ビジョンの推進にあたっては、マーケティング力を強化し、ターゲットを絞った効果的なプロモーションを行うとともに、観光消費額を増加させるための仕掛けづくり、観光振興に伴う多様な事業を持続的に展開できるための新たな財源確保のあり方の検討などに取り組めます。とりわけ、(一財)山口観光コンベンション協会や湯田温泉旅館協同組合などの観光推進組織が連携することによるスケールメリットを生かした観光施策を促進します。さらに、大学などの高等教育機関が有する観光経営のマネジメント能力を活用し、観光客の動向や観光消費額、顧客満足度など、観光の質や経済波及効果を把握できる統計を複合的に整備します。

I 推進体制の強化

(1) 観光推進組織

多様化・高度化する観光ニーズの変化などに対応するため、旅館やホテルなどの宿泊業や旅行業、運輸・交通業といった観光産業だけでなく、産学官、そして市民やNPOなどの市民団体を含めたパートナーシップを確立するとともに、市民を含めた全ての団体が活躍できる観光地域づくりを地域全体で支える組織で推進します。



(2) 取り組み主体の役割

■ 行政(山口市)の役割

市においては、庁内関係各部課の連携はもとより、国・県をはじめ関係市町や関係機関、民間および市民との協議・調整を図りながら、地域や民間における創意工夫や活力を引き出すような、民間の力が存分に発揮できるしくみづくりを行います。

また、多種多様な観光客のニーズに対応したサービスの提供を支援するため、観光に関する情報収集、調査研究を強化し、観光事業者や各観光協会をはじめとする観光推進組織との情報共有に努めるとともに、観光地域づくりの実現をめざします。

■ 観光推進組織の役割

(一財)山口観光コンベンション協会や旅館組合、商工会議所などは、観光地域づくりの施策を担う主導的機関として、組織・体制の更なる強化を図るとともに、観光産業と連携し、効果的なプロモーション活動を行い、地域経済全体の活性化に努めます。

■ 観光産業の役割

宿泊業や旅行業などの観光産業が、日常の経済活動の中で果たす役割は大きく、観光産業の活性化の主体的役割を担っていることから、観光地域づくりのけん引役として、行政や市民と一体となり、本市に適した観光産業の創出・振興を図ります。

■ 市民の役割

市民は、地域の自然・歴史・文化に誇りと愛着を持つことで、市の財産である観光資源を再認識し、地域の魅力は自分たちで作り上げる気運の向上に努めるとともに、その魅力ある観光資源を口コミ等を通じて市内外へ広く情報発信します。

また、訪れた人への心温まる触れ合いが観光客の増加と地域の活性化に貢献するということを自覚し、「おもてなし」の心の実践に努めます。

■ 地域の研究機関等の役割

観光の専門学科がある山口大学や山口県立大学など地域の研究機関は、観光や地域資源などに関する研究や、地域活性化に携わる人材育成に努めます。

また、産学官連携により、地域特有の課題を解決するためのプランナーとして、観光振興に寄与する取組を行います。

Ⅱ 観光経営マネジメントの構築

(1) 観光人材の育成とネットワーク化

観光客のニーズの多様化により、観光産業間はもとより地域住民や農業などの他業種との連携強化など、観光地域づくりを推進するために必要な人材も多様化してきております。

また、地域において観光の魅力を磨き上げ、充実したものにしていくためには、優れたマネジメントを行える経営者等や専門的な知識と能力を有するコーディネーター等の人材が必要となることから、担い手の育成や他分野での成功者の活用などについて、産学官民が協働で協議できる仕組みづくりやルールを構築し、ネットワーク化を図ります。

(2) 観光関連統計の充実

変動する観光ニーズや動向に的確に対応するため、「山口市観光動態アンケート調査」等をはじめ、その時代にあった観光マーケティングを行い、各事業や進行管理について客観的に評価・フィードバックするとともに、訪日外国人観光客の獲得に向けた取組や周遊観光の推進など交流人口拡大だけでなく、消費効果も重視した取組を展開していきます。



阿知須ひなもん祭り



湯田温泉 マスコットガール「湯田ゆう子」台湾プロモーション



瑠璃光寺五重塔ガイド



新山口駅北口駅前広場「えきの笑顔まつり」

資料編



国宝瑠璃光寺五重塔

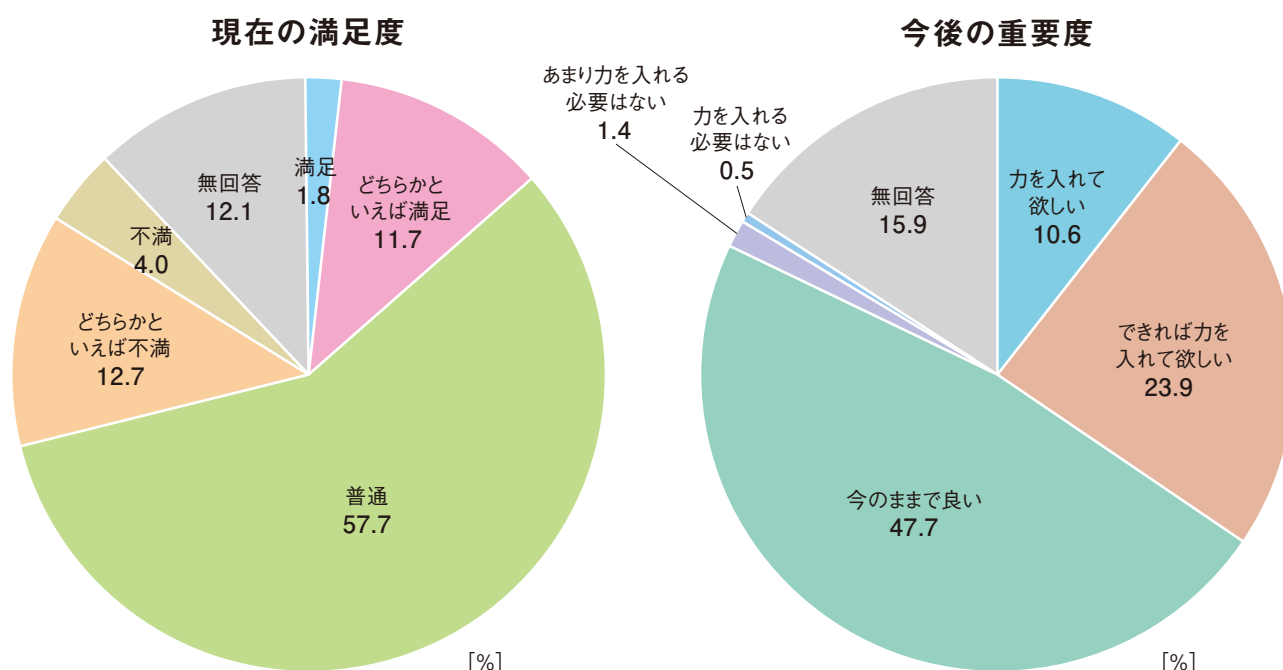
■ 山口市まちづくりアンケート（平成29年12月実施 集計結果より）

山口市総合計画では、達成度を測る“大切なものさし”として「成果指標」を設定しています。この「成果指標」の現状値と総合計画の進捗状況や各行政分野に対する市民の「満足度」、「重要度」を把握し、今後のまちづくりに生かしていくことを目的として、毎年アンケートを実施しています。

設問項目の一つ「観光の振興」の「満足度」については、「満足 1.8%」「どちらかといえば満足 11.7%」「普通 57.7%」となっています。

「重要度」については、「力を入れて欲しい 10.6%」「できれば力を入れて欲しい 23.9%」となっています。

〈観光の振興〉



■ 山口市観光動態アンケート調査

山口市を訪れる観光客の実態を把握する返信用ハガキを用いた調査で、山口市内の主要な観光拠点に訪れた観光客に対して、留置、あるいは、郵送によって回収を行う手法で行っています。集計及び調査結果の分析は、山口大学経済学部観光経済経営研究プロジェクトに協力していただいています。

(1) アンケート集計結果

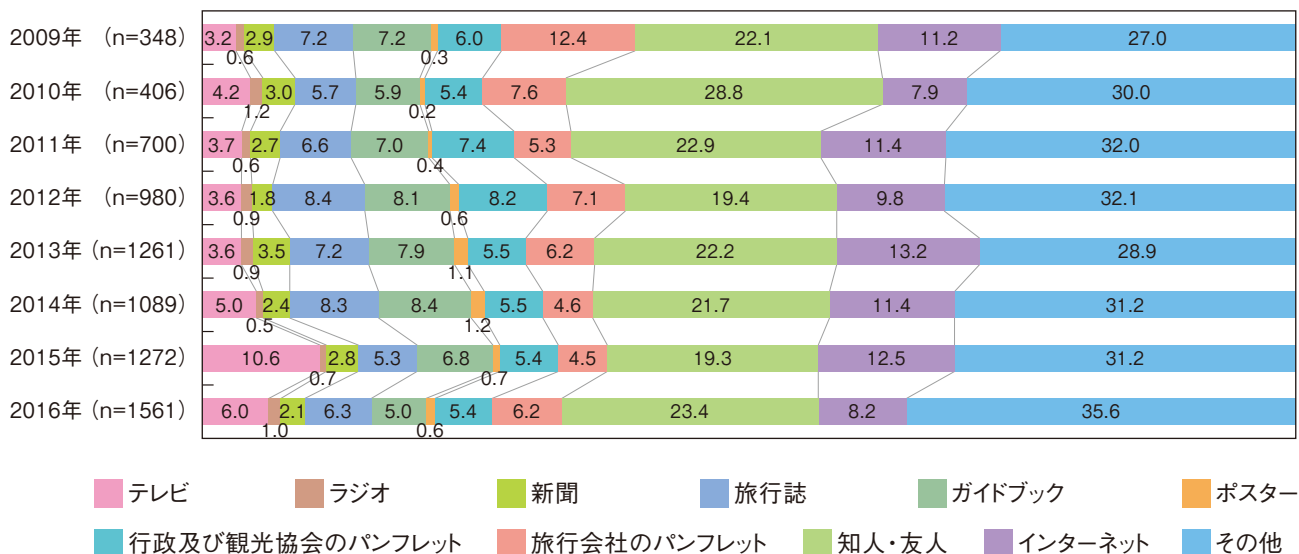
〈旅行の情報源〉

● 山口市を訪問したきっかけの媒体

回答数を1つのみ選択としています。いずれの年もその他が最も多く、続いて友人・知人が多い割合を占めています。2015年は例年に比べ、テレビの割合が高くなっており、大河ドラマの放映が影響していると考えられます。

山口市を訪問したきっかけとなった媒体の推移

[%]



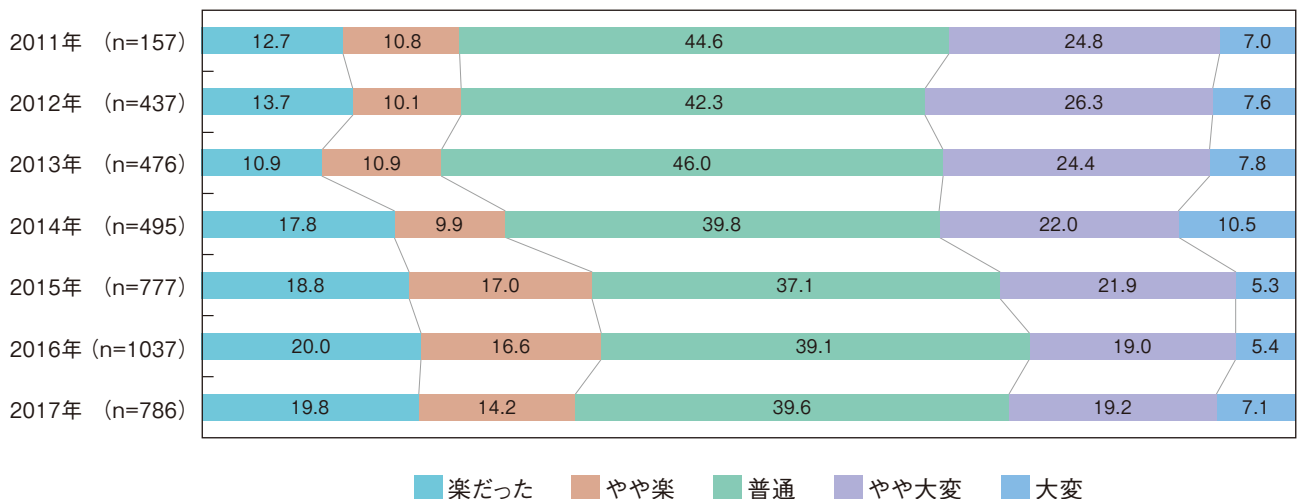
〈交通・移動〉

● 交通の便の乗り継ぎについての評価

2014年には楽だったとする評価の割合が増加し、2015年には、やや楽だったとする回答も増加し、評価が良くなっています。やや大変とする割合は20%台で推移しており、大変とする割合は7%前後で推移しています。

乗り継ぎの評価の推移

[%]



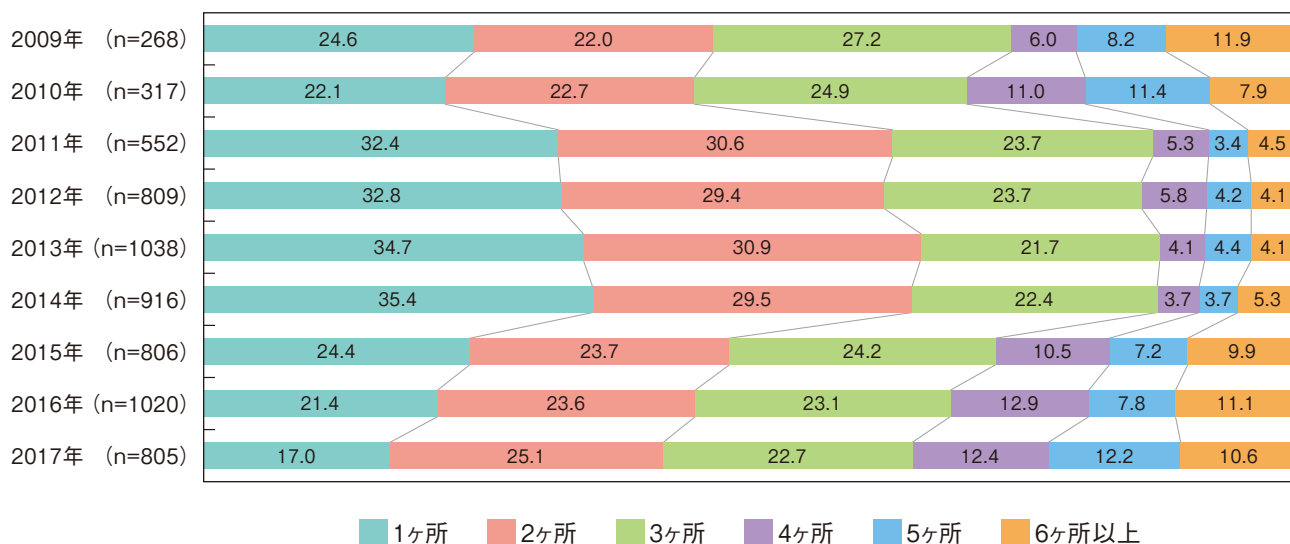
〈周遊行動〉

●山口市内で立ち寄った観光施設数

2010年までは3ヶ所が最も多いが、2011年から2015年では1ヶ所が最も多くなっており、続いて2ヶ所、3ヶ所となっています。しかし、2016年以降は1ヶ所の割合が減少し、2ヶ所の割合が一番多くなっています。

立ち寄った観光施設数の推移

[%]



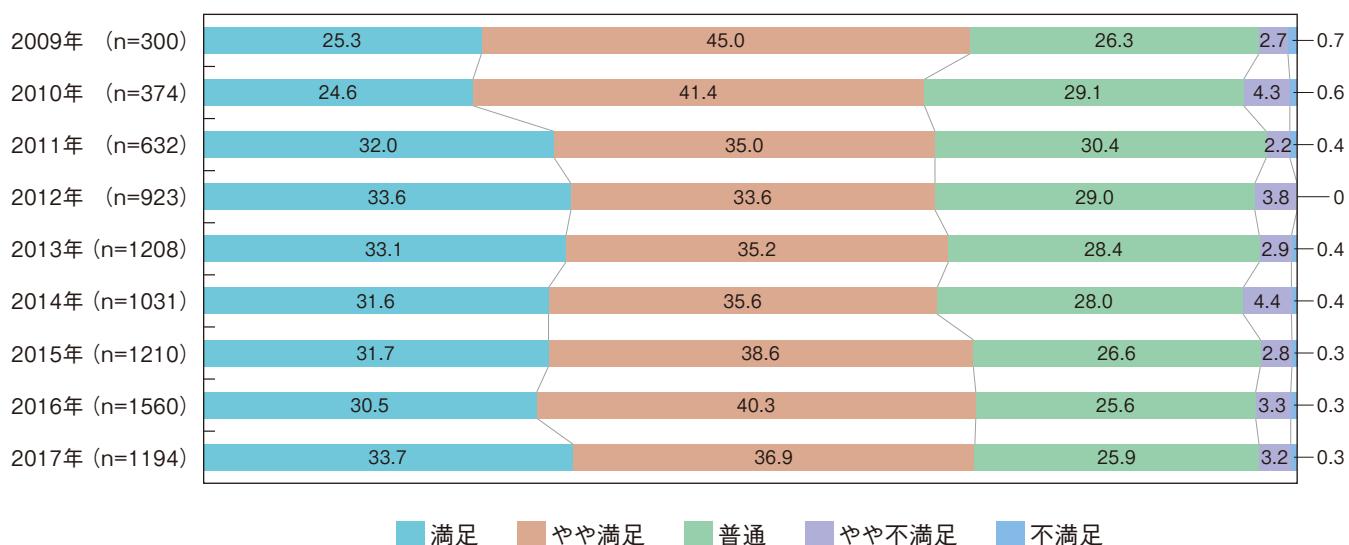
〈満足度〉

●山口市訪問の満足度

いずれの年もやや満足とする評価が多く、2011年からは満足が普通を上回り、山口市の満足度は高いものとなっています。

山口市訪問の満足度の推移

[%]



(2) アンケート集計結果からみる山口市観光の現状

■ 観光のための情報

- ・多様なメディアを活用した情報発信が必要である。
- ・インターネット情報端末向けの情報提供の充実が求められる。

■ 交通・移動

- ・路線バス利用者への乗り継ぎ、道路標識、観光案内板等の対策が必要である。
- ・自転車や徒歩での旅行の満足度は高く、今後も自転車、歩行向けの道路標識、観光案内板の整備が必要である。

■ 周遊行動

- ・山口市を經由した周遊は近年低下傾向にあり、地の利を生かした全県的な拠点としての機能を見直す必要がある。
- ・有人案内施設のより一層の充実が重要である。
- ・狐の足あとを活用した滞在時間の延長と消費額増加の取組が必要である。
- ・メディアアート分野での知名度が高いYCAMと観光交流行動の結びつきが弱い。

■ 満足度

- ・土産物は価格のほかに、品揃えの評価も低下傾向にあることから、品揃えと価格の両面での改善が喫緊の課題である。
- ・十朋亭、山口市菜香亭、一の坂川を訪問した旅行者の満足度が高い傾向にあり、一の坂川周辺のまち歩きなどの回遊を促進する取組が必要である。



山口市内レンタサイクル



一の坂川

■ 山口市SWOT分析

プラス要因

マイナス要因

内部環境

強さ Strength

- ・山口市にはホンモノの歴史と自然がある
- ・海、山、川があり、自然豊か
- ・史跡が多い
- ・県庁所在地である
- ・大学が4つある
- ・道路環境がよい
- ・韓国、中国などアジア圏に近い
- ・レノファ山口がある

弱さ Weakness

- ・交通が不便(二次交通が不十分)
- ・特産品、名産品が少ない
- ・温泉情緒がない
- ・保守的な風土である
- ・自転車が走る道路が未整備
- ・理系学生が就職できる企業が少ない

外部環境

機会 Opportunity

- 2017 デスティネーションキャンペーン
- 2018 明治維新150年
全国都市緑化祭フェア(山口ゆめ花博)
中枢中核都市認定
- 2019 ラグビーワールドカップ2019
- 2020 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
日本博
- 2021 周遊型博覧会

脅威 Threat

- ・高齢化が進んでいる
- ・少子化が進んでいる
- ・若年層の人口流出
- ・農業従事者の減少
- ・地域間競争の激化
- ・地震、風水害などの災害発生

SWOT分析とは

マーケティングにおける市場環境分析の一般的な手法として、SWOT分析という手法があります。企業等が新たなビジネスを展開する際に市場環境を自社の強み(S:Strength:資源等)、弱み(W:Weakness)、市場機会(O:Opportunity:市場の可能性等)、脅威(T:Threat:競合他社)の要素に分けて分析し、4象限に展開図示し、対策を考える方法です。

観光・集客においても、地元関係者や外部の専門家が参加して付箋を使ったワークショップ方式でSWOT分析を行い、地域の強みや売り物となる資源は何か、弱点は何か、追い風となる市場機会はあるか、あるいは競合する地域はあるかを明らかにすることが有効と考えられます。

そして、その結果を基に強みを伸ばして活用する方法、弱点を補う方法あるいは弱点を強みに転換する方法、市場環境を踏まえた対応、他地域との差別化の方法等を考えることが重要です。

■ 山口市観光交流加速化ビジョン策定委員会

(山口市観光産業活性化委員会の専門部会として設置)

山口市観光交流加速化ビジョン策定委員名簿

(敬称略)

	団 体 名	氏 名
1	(一社)日本旅行業協会中四国支部山口地区委員会 委員長(前任)	井上 康
	(一社)日本旅行業協会中四国支部山口地区委員会 委員長(後任)	多田 望
2	(一財)山口観光コンベンション協会 理事長	大庭 達敏
3	山口県央商工会 会長	富田 正朗
4	(公社)山口県バス協会 防長交通山口営業所長	井上 大輔
5	山口市観光ボランティアガイドの会 会長	水摩 嘉孝
6	山口市自治会連合会 会長	清水 力
7	山口市物産事業者連絡協議会 会長	佐藤 英仁
8	山口商工会議所 副会頭	石田光一郎
9	山口地区タクシー協会 会長	中司 安彦
10	湯田温泉配給協同組合 理事長	村田 義忠
11	湯田温泉保養所連絡協議会 会長	細田 法孝
12	湯田温泉料飲社交組合 組合長	堀本 紀代
13	湯田温泉旅館協同組合 理事長	宮川 力
14	山口市交流創造部 部長	江藤 寛二

山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会委員名簿

(敬称略)

	団 体 名	氏 名
1	(一財)山口観光コンベンション協会 専務理事	鈴木 克彦
	(一財)山口観光コンベンション協会 観光事業部長	藤井 忠
2	山口商工会議所 企画推進部長(前任)	重村奈津枝
	山口商工会議所 企画推進部長(後任)	阿部 誉久
3	湯田温泉配給協同組合 事務局長	吉本 康治
4	湯田温泉旅館協同組合 事務局長	
5	山口市交流創造部観光交流課 課長	岡村萬利雄

■ 山口市観光産業活性化委員会設置要綱

（設置及び目的）

第1条 山口市観光交流基本計画（以下「基本計画」という。）に基づき、民間と行政が一体となって観光振興に取り組み、より具体的、積極的に推進する体制を整えることを目的として、山口市観光産業活性化委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、交流人口の拡大、旅行時の滞在消費額の拡大、満足度を高めるサービス・商品の提供に向けた戦略的観点から、基本計画に掲げる事業を総合的・一体的に推進する。

（組織）

第3条 委員会は、別表1の構成団体により組織する。

（委員長）

第4条 委員会には、委員長、副委員長を置き、委員の互選により定める。

（会議）

第5条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる。

2 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

（幹事会）

第6条 委員会の検討事項の整理、その他委員長から指示のあった事務を処理するために幹事会を置く。

2 幹事会は、別表2の構成団体をもって組織する。

（顧問）

第7条 委員会に顧問を置き、山口市長をもって充てる。

（専門部会の設置）

第8条 委員会は、事業を推進するにあたり、専門的かつ重点的な協議・検討を行うため、必要に応じて、専門部会を設けることができる。

（庶務）

第9条 委員会の庶務は、山口市交流創造部観光交流課において処理する。

（その他）

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

別表1(第3条関係)

徳地商工会
西日本旅客鉄道株式会社
(一社)日本旅行業協会中四国支部山口地区委員会
(一財)山口観光コンベンション協会
山口県央商工会
山口県農業協同組合中央会
(公社)山口県バス協会
山口市観光ボランティアガイドの会
山口市自治会連合会
山口市体育協会
山口市物産事業者連絡協議会
山口商工会議所
山口大学経済学部観光政策学科
山口地区タクシー協会
山口文化協会
湯田温泉配給協同組合
湯田温泉保養所連絡協議会
湯田温泉料飲社交組合
湯田温泉旅館協同組合
山口市

別表2(第6条関係)

(一財)山口観光コンベンション協会
山口商工会議所
湯田温泉配給協同組合
湯田温泉旅館協同組合
山口市

■策定過程

年	月 日	内 容
2018 (平成30)年	4月27日	策定方針決定
	6月19日	第1回山口市観光交流加速化ビジョン策定委員会
	7月19日	第1回山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会
	8月23日	第2回山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会
	9月20日	第3回山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会
	10月18日	第4回山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会
	11月15日	第5回山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会
	12月11日	第2回山口市観光交流加速化ビジョン策定委員会
	12月20日	第6回山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会
2019 (平成31)年	1月17日	第7回山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会
	1月28日	経営会議(ビジョン(計画)案に対する審議)
	2月12日	山口市市議会への説明
	2月13日	第8回山口市観光交流加速化ビジョンワーキング部会
	2月13日～3月14日	ビジョン(計画)案に対するパブリックコメントの実施
	3月20日	第3回山口市観光交流加速化ビジョン策定委員会
	3月	ビジョン(計画)策定

山口市観光交流加速化ビジョン

編集発行：山口市（交流創造部 観光交流課）

TEL:083-934-2810 FAX:083-934-2649